

山陽小野田市健康づくり計画策定に関する
市民意識調査の集計・分析結果 報告書

1. 実施方法

実施日 2017年11月1日～11月24日

配布人数 3,000人（20～79歳を年代別、性別、地区別に人口比率に合わせ無作為抽出）

有効配布数 2,985人（転居先不明での返送等 15人）

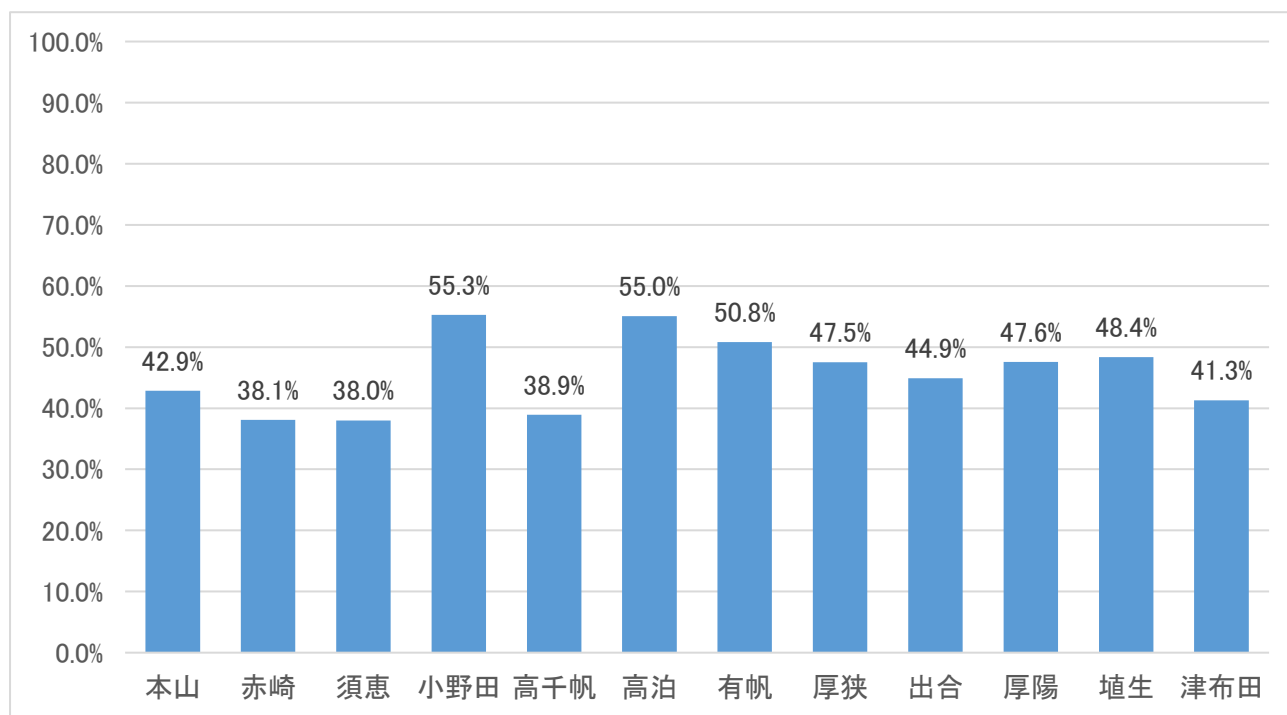
	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	計	宛先不明	有効配布数
本山	13	24	31	20	34	25	147	0	147
赤崎	32	29	37	36	47	29	210	0	210
須恵	55	55	88	68	88	74	428	4	424
小野田	42	54	55	47	66	60	324	2	322
高千帆	64	109	104	66	111	73	527	3	524
高泊	20	25	57	24	53	40	219	1	218
有帆	18	20	29	26	49	37	179	0	179
厚狭	62	78	79	76	100	93	488	2	486
出合	15	12	28	28	26	18	127	0	127
厚陽	11	12	16	14	26	25	104	1	103
埴生	10	17	40	38	47	31	183	1	182
津布田	5	10	13	14	13	9	64	1	63
計	347	445	577	457	660	514	3000	15	2985
宛先不明	0	1	3	4	5	2	15		
有効配布数	347	444	574	453	655	512	2985		

2. 回収人数と回収率

回収人数 1,356 人

回収率 $1356/2985=45.4\%$

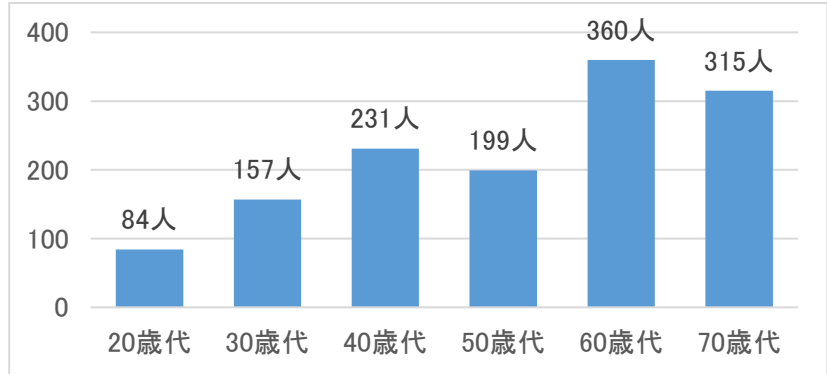
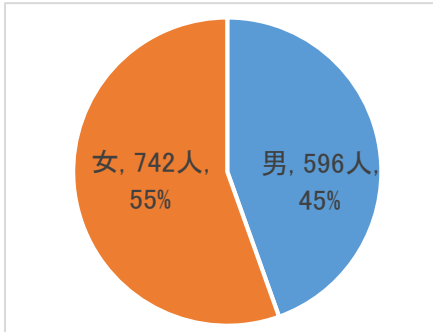
<校区別回収率>



3. 結果

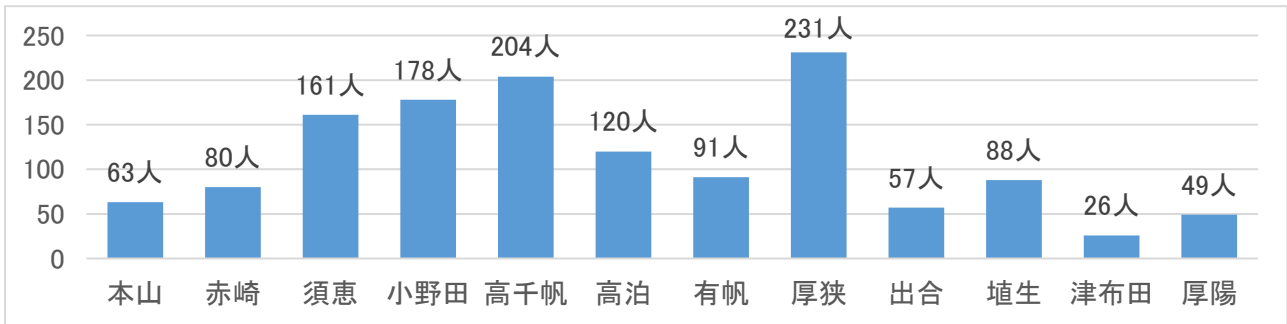
(問1) 性別 1. 男 2. 女

(問2) 年代 1. 20歳代 2. 30歳代 3. 40歳代 4. 50歳代 5. 60歳代 6. 70歳代



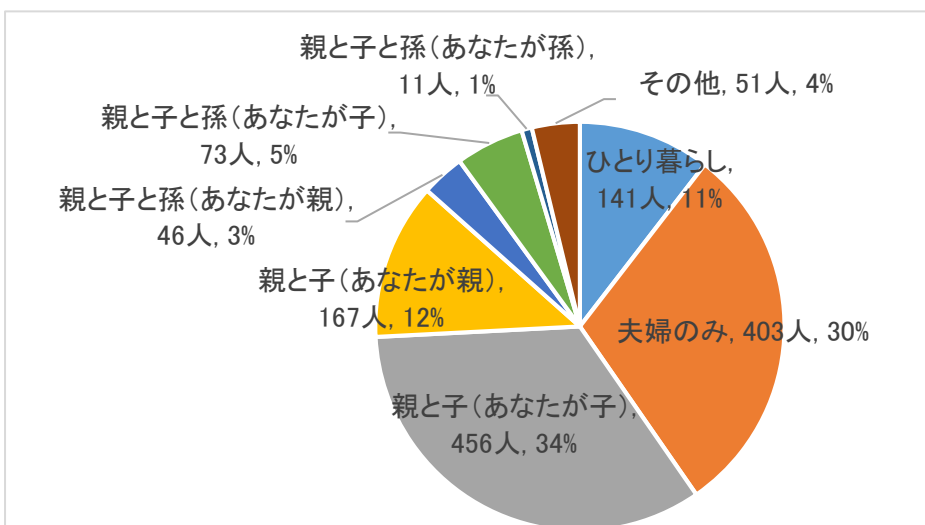
(問3) お住まいの校区

1. 本山 2. 赤崎 3. 須恵 4. 小野田 5. 高千帆 6. 高泊 7. 有帆 8. 厚狭 9. 出合
10. 埴生 11. 津布田 12. 厚陽



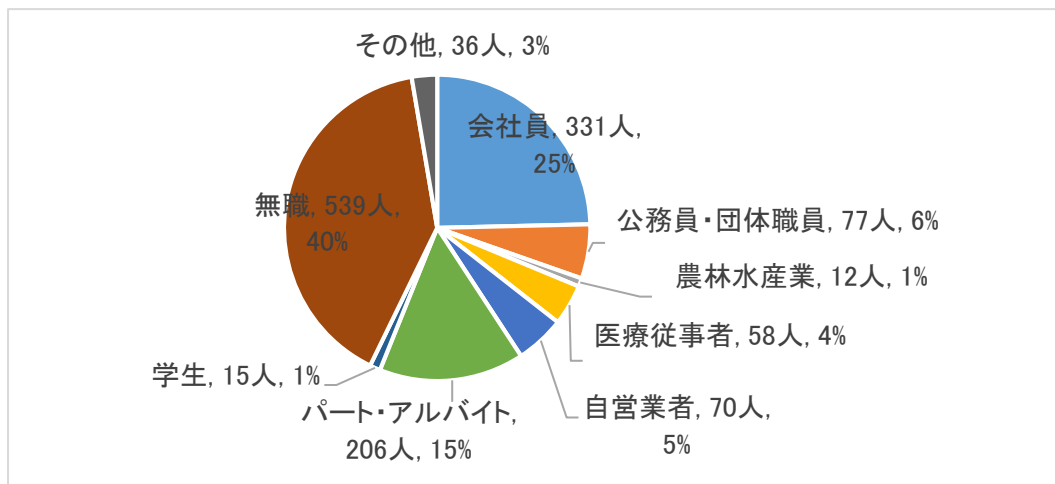
(問4) 家族構成

1. ひとり暮らし 2. 夫婦のみ 3. 親と子(あなたが親) 4. 親と子(あなたが子) 5. 親と子と孫(あなたが親)
6. 親と子と孫(あなたが子) 7. 親と子と孫(あなたが孫) 8. その他()



(問5) 職業

1. 会社員(役員含む) 2. 公務員・団体職員 3. 農林水産業従事者 4. 医療従事者 5. 自営業者
6. パートタイム・アルバイト 7. 学生(浪人を含む) 8. 無職(退職後、専業主婦・主夫を含む) 9. その他()



(問6) 身長・体重

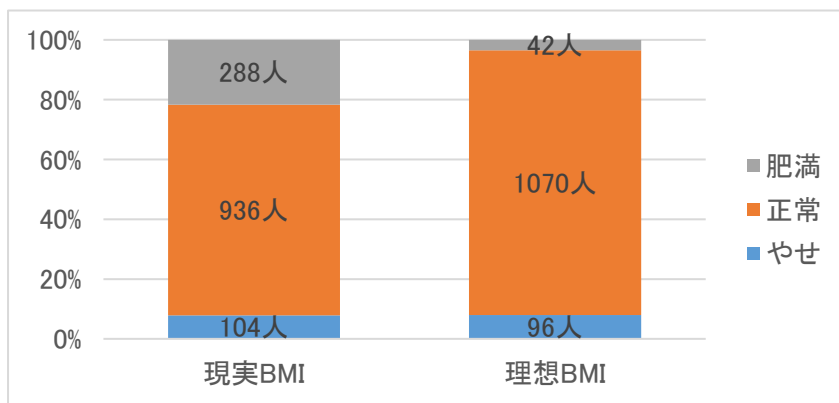
【四捨五入した整数で回答】 身長()cm , 体重()kg

あなたが思う理想の体重はどれくらいですか () kg

身長: 平均値±標準偏差 161.1±9.0cm、中央値(最小値-最大値) 160(137-186)cm

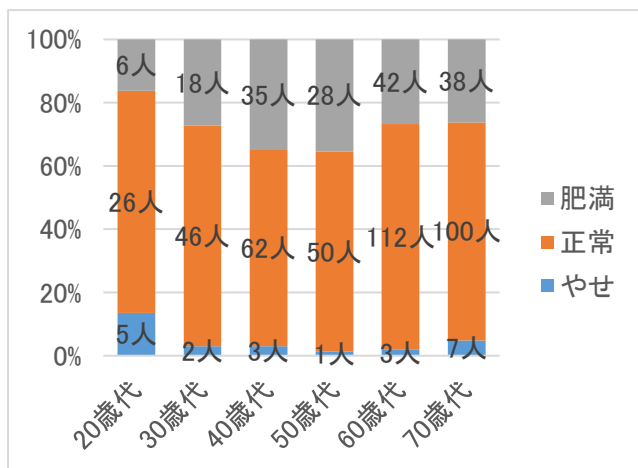
体重: 平均値±標準偏差 59.3±11.9kg、中央値(最小値-最大値) 58(34-150)kg

<現実のBMIと理想体重の場合のBMI>

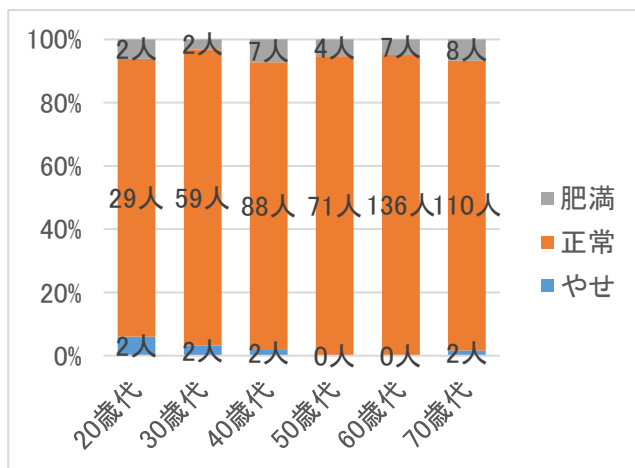


<男性年代別>

現実の BMI



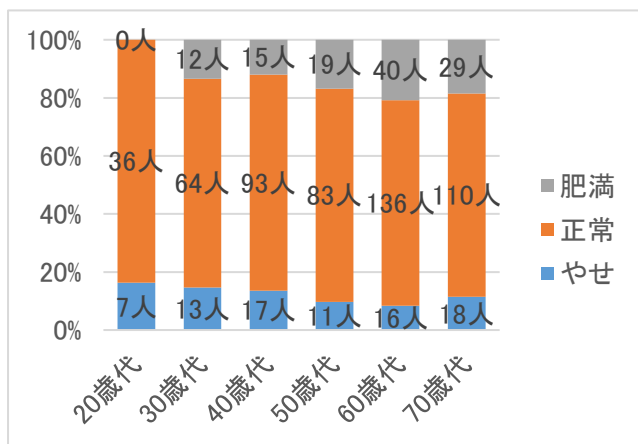
理想体重の場合の BMI



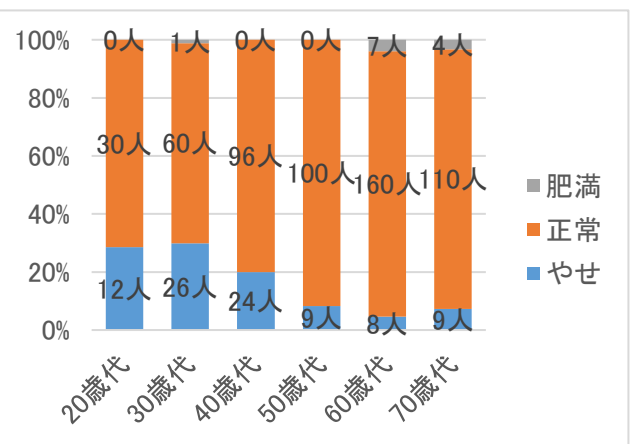
男性は 40～50 歳代の 3 人に 1 人が肥満であるなど、全体的に肥満者の割合が高い。20～60 歳代男性の肥満者の割合は 29.4%で、健康日本 21 の目標値である 28%に達していない。理想とする体重はどの年代も 9 割が BMI 基準値内の値を答えており、理想体重に近づけるための具体的な方策が求められる。

<女性年代別>

現実の BMI



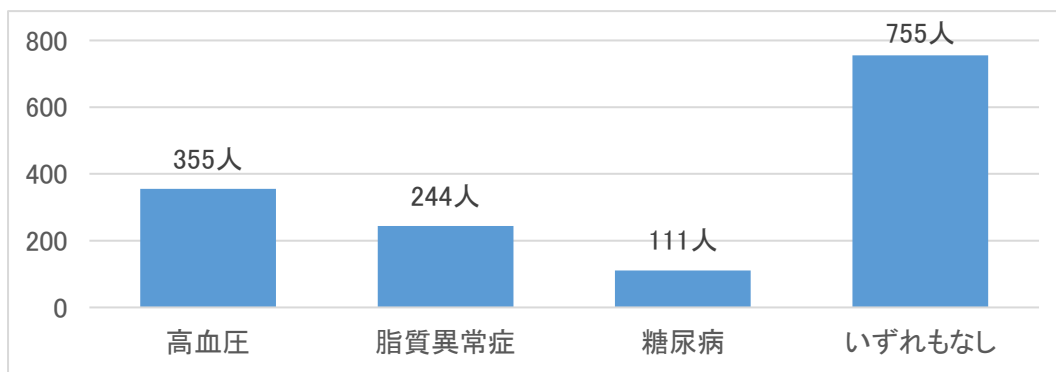
理想体重の場合の BMI



40～60 歳代女性の肥満者の割合は 17.2%、20 歳代女性のやせの者の割合は 16.3%であり、健康日本 21 で掲げられたそれぞれの目標値である 19%、20%をすでに達成できている。ただし、20 歳代の 28.6%、30 歳代の 29.9%、40 歳代の 20.0%がやせの体型を理想と答えており、適切な体重を広く周知する必要がある。

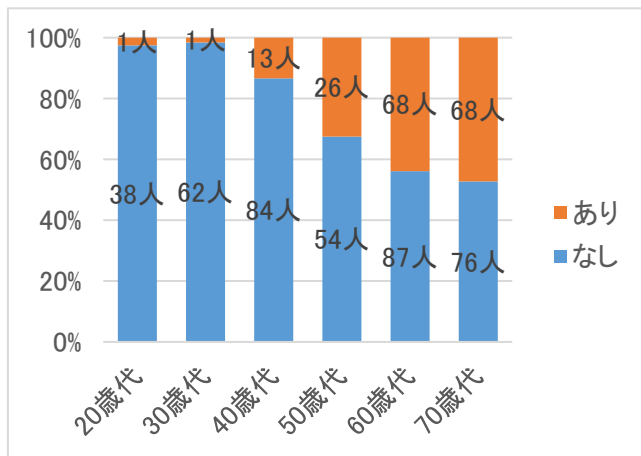
(問 7) 持病

1. 高血圧 2. 脂質異常症(コレステロール) 3. 糖尿病 4. いずれもなし

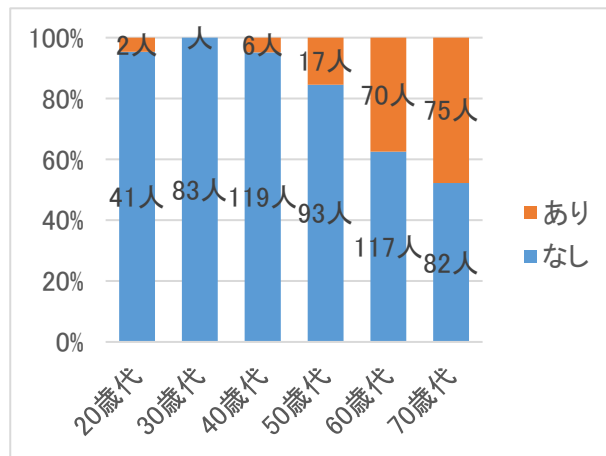


<高血圧>

男性年代別

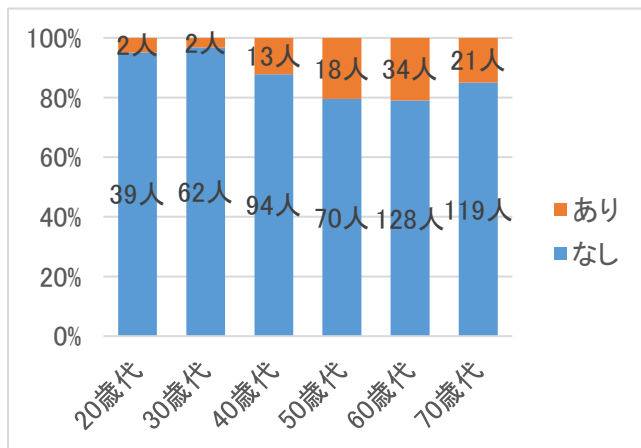


女性年代別

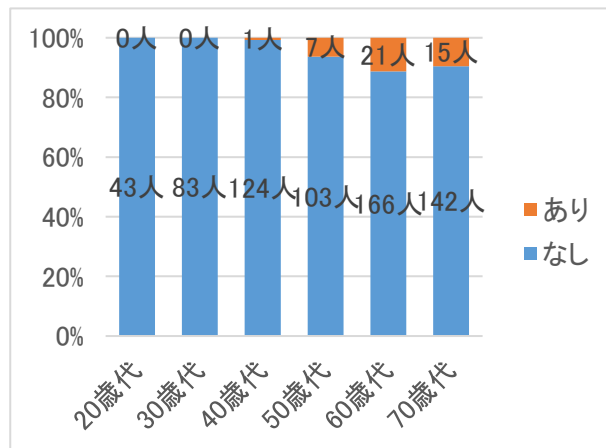


<糖尿病>

男性年代別



女性年代別



各疾患とも男性が40歳代、女性が50歳代から増えるなど、年齢が上がると共に有病率が高くなっている。若いうちからの生活習慣改善によって、生活習慣病の予防を行わなければならない。

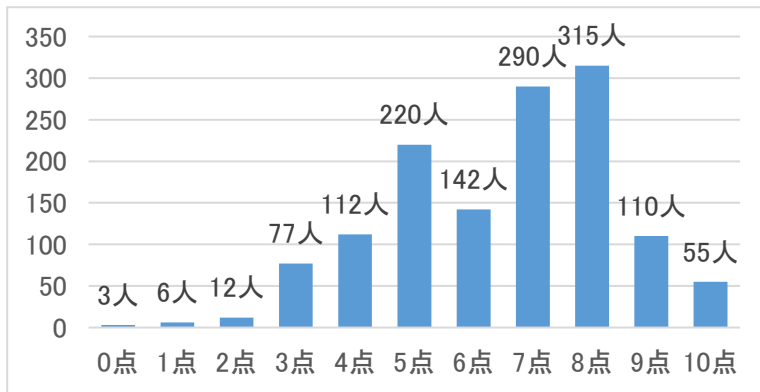
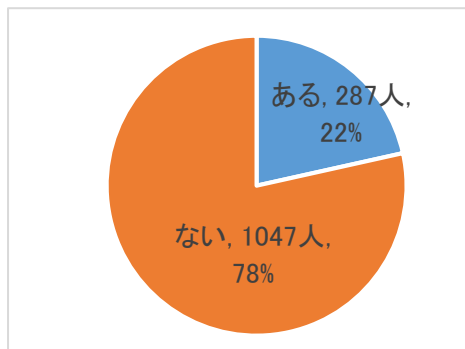
(問 8) あなたは現在、健康上の問題で日常生活に何か影響がありますか。(〇は1つ)

1. ある 2. ない

(問 9) あなたの現在の健康状態を10点満点で表すと何点ですか。(〇は1つ)

よくない ← → よい

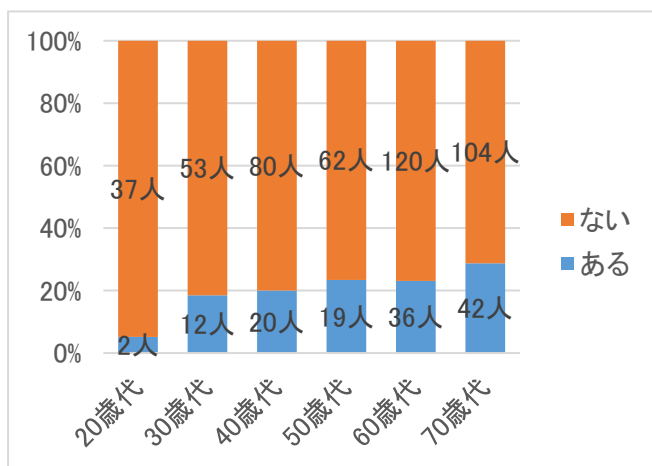
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10



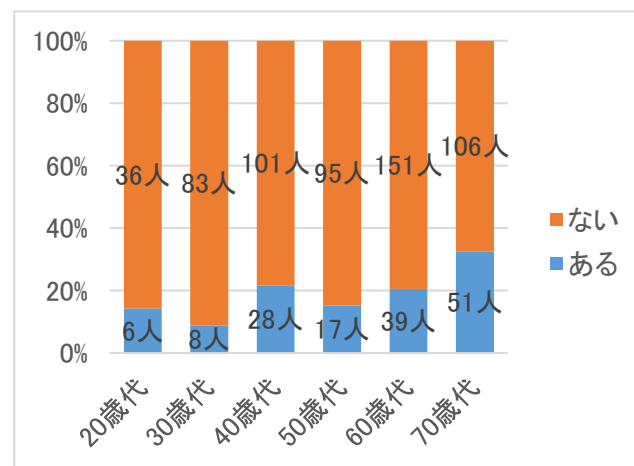
平均値±標準偏差 6.52±1.9 点 中央値(最小値-最大値) 7(0-10)点

<健康上の問題での日常生活への影響>

男性年代別



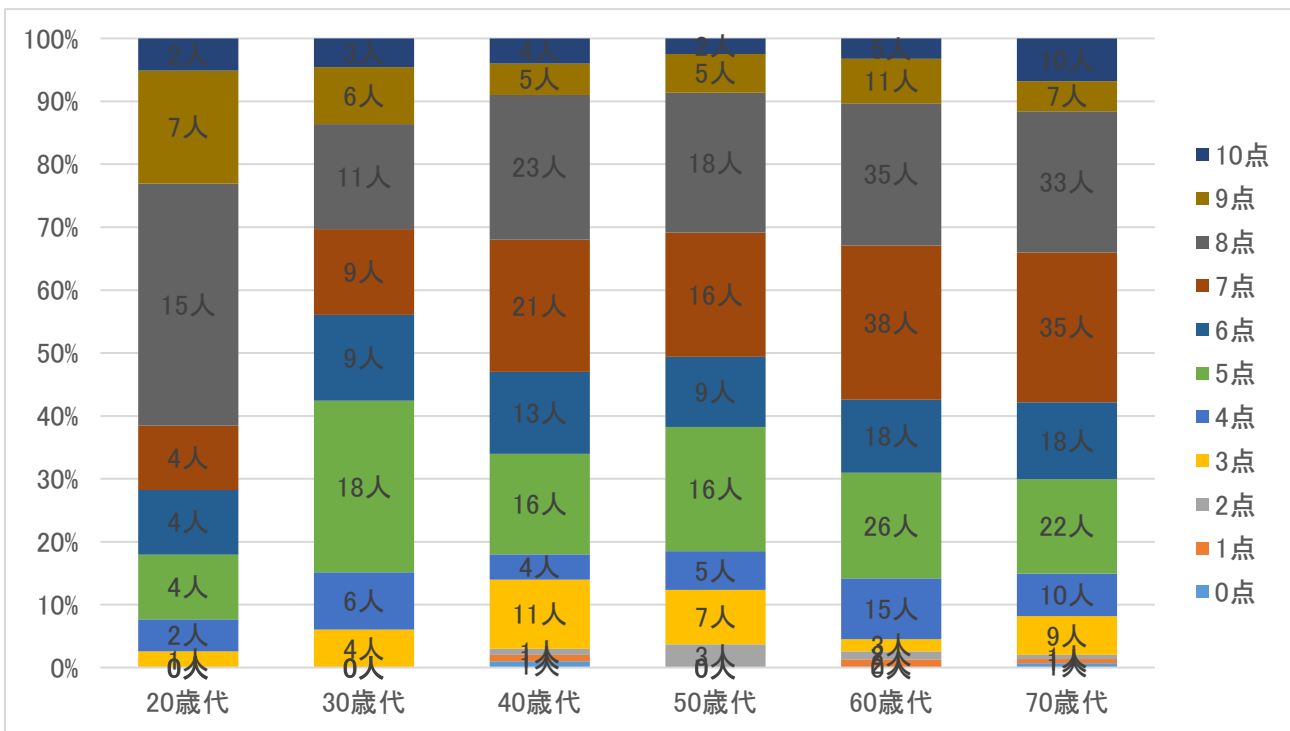
女性年代別



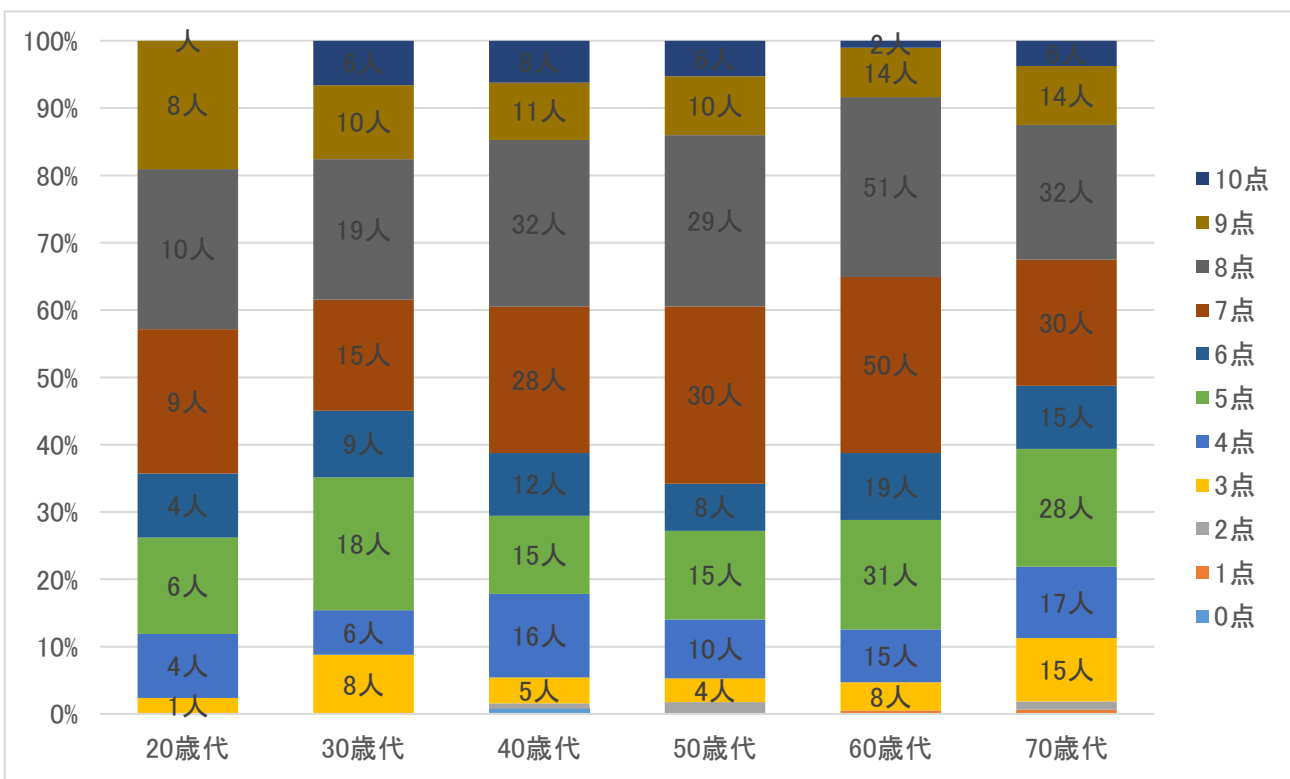
男性は 30 歳代以降 20%近くが影響ありと答えるなど、年齢が高くなるにつれて健康上の問題で日常生活への影響がある人の割合が増えている。女性は 20 歳代および 40 歳代で、健康上の問題で日常生活への影響がある人と回答した人の割合がやや高い。

<主観的健康感>

男性年代別



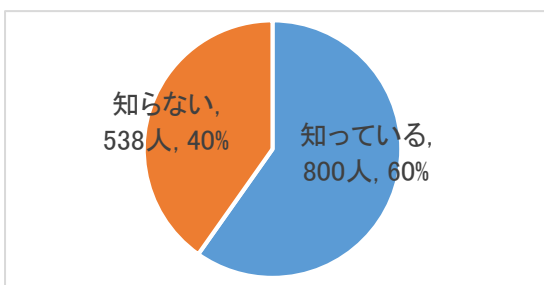
女性年代別



男性は30～50歳代で主観的健康感が低い人が多く、女性は30歳代で低い人が多い。男性は仕事、女性は子育てによる影響か。男女とも70歳代で主観的健康感が低い人が増えているのは健康面、また本人や家族の介護の問題等があると考えられる。

(問 10) あなたは平均寿命と健康寿命の違いを知っていますか。(〇は1つ)

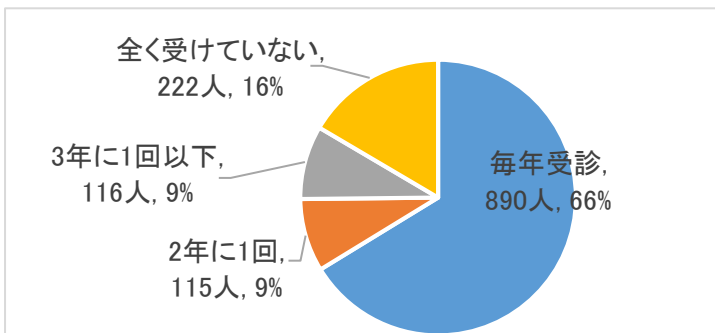
1. 知っている 2. 知らない



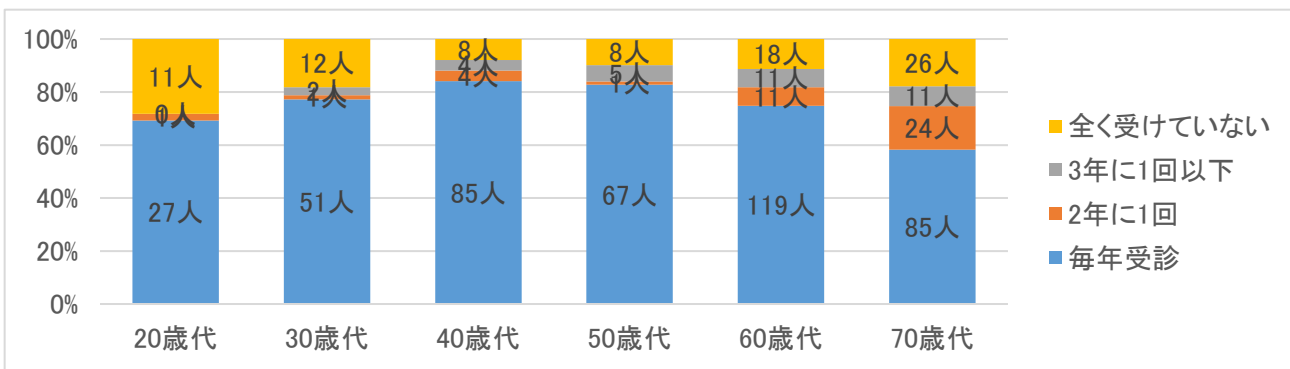
健康寿命という言葉は広まっていると思われるが、平均寿命との違いを説明できる人は6割程度の様子。

(問 11) あなたは健診(がん検診を除く一般健診・健康診査)を受けたことがありますか。(〇は1つ)

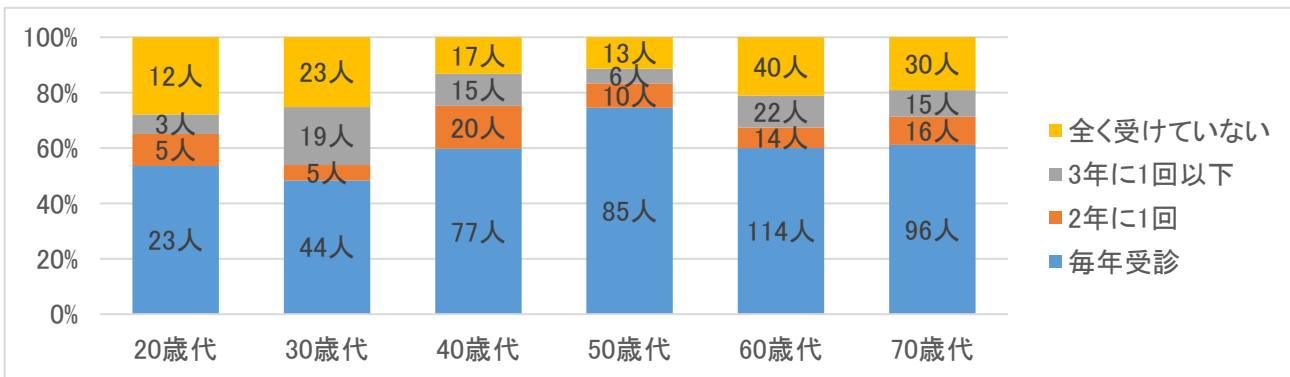
1. 毎年受けている→問 13へ 2. 2年に1回は受けている→問 13へ 3. 3年に1回以下→問 13へ
4. 全く受けていない→問 12へ



男性年代別



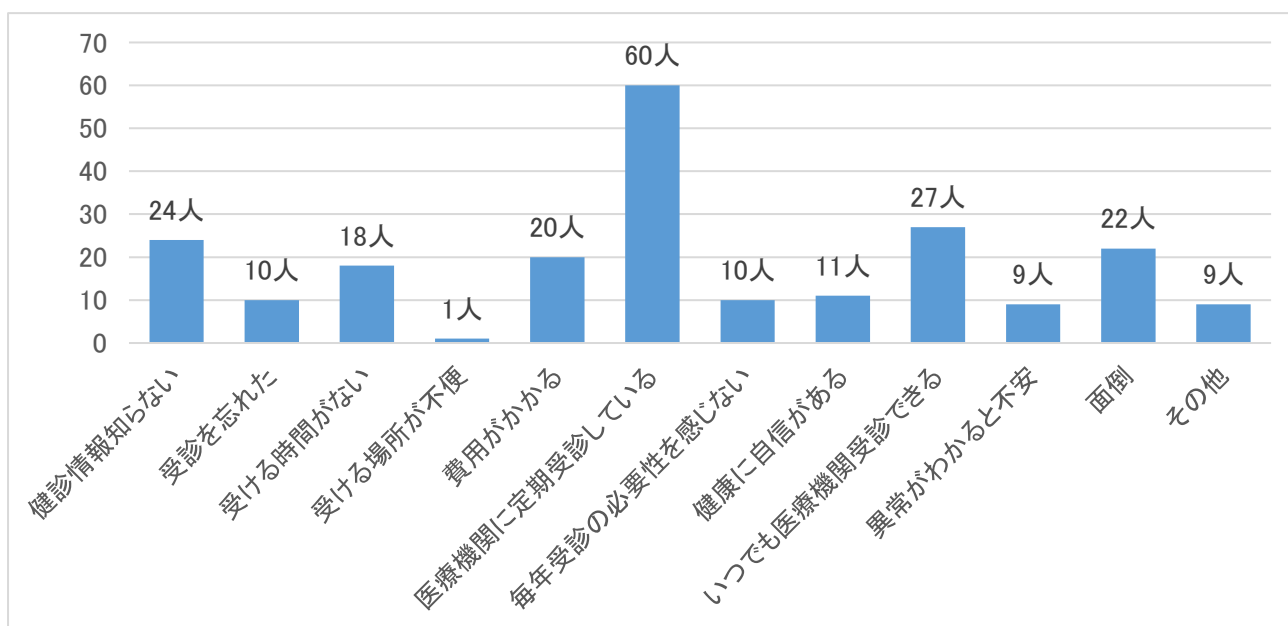
女性年代別



60歳代までは男性の方が毎年健診を受診している人の割合が高いが、70歳代はほぼ等しくなっている。仕事をしていない女性、および退職後の男性の健診受診率を上げなければならない。

(問 12) 問 11 で「4 全く受けていない」と答えた方で、最もよくあてはまる理由はどれですか。(〇は1つ)

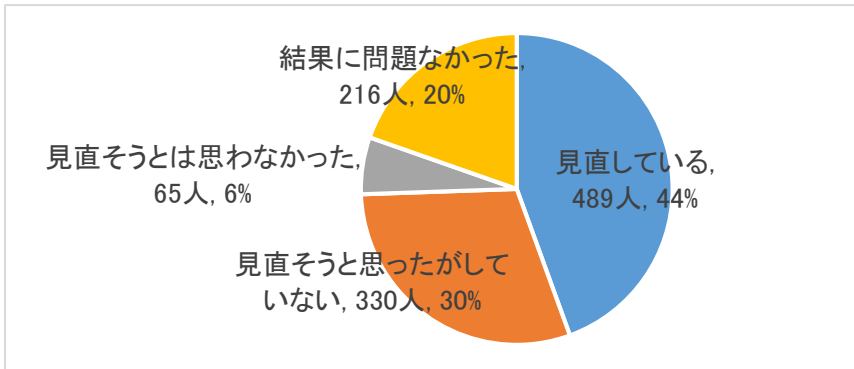
1. 健診の情報を知らないから
2. うっかり受診するのを忘れていたから
3. 受ける時間がないから
4. 受ける場所が不便だから
5. 費用がかかり経済的にも負担になるから
6. 医療機関に定期的に受診しているから
7. 毎年受ける必要性を感じないから
8. 健康状態に自信があり必要性を感じないから
9. 必要な時はいつでも医療機関を受診できるから
10. 異常がわかると不安だから
11. 面倒だから
12. その他()



健診を受診していない理由として医療機関を定期受診しているという回答が最も多いが、受診の中で健診的な検査が行われているとは限らず、主治医から健診受診を勧めると効果的かもしれない。健診情報を知らないという人も少なくはないので、周知にもさらに力を入れる必要がある。

(問 13) 問 11 で「1 毎年受けている」「2 2年に1回は受けている」「3 3年に1回以下」の場合、あなたは、健診の結果を受けて、生活習慣を見直していますか。(〇は1つ)

1. 見直している→問 14 へ
2. 見直そうと思ったがしていない→問 15 へ
3. 見直そうとは思わなかった→問 15 へ
4. これまで結果に問題がなく、見直す必要がなかった→問 16 へ

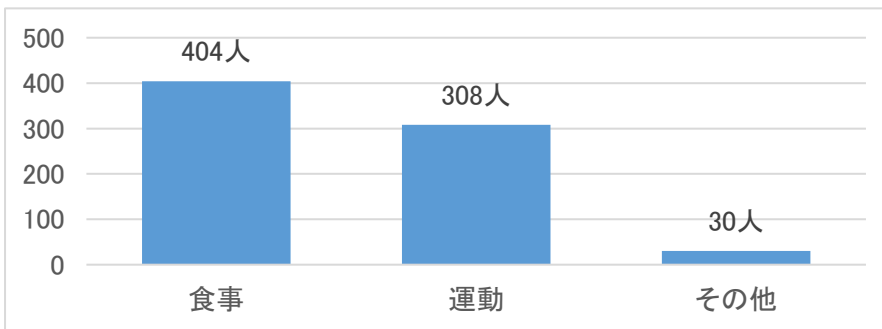


生活習慣を見直そうと思ったがしていない、見直そうとは思わなかったと回答した人が3分の1を超えており、健診受診後の保健指導が求められる。

(問 14) 問 13 で、「1 見直している」の場合、以下のどのようなことですか。

あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 食事 2. 運動 3. その他()

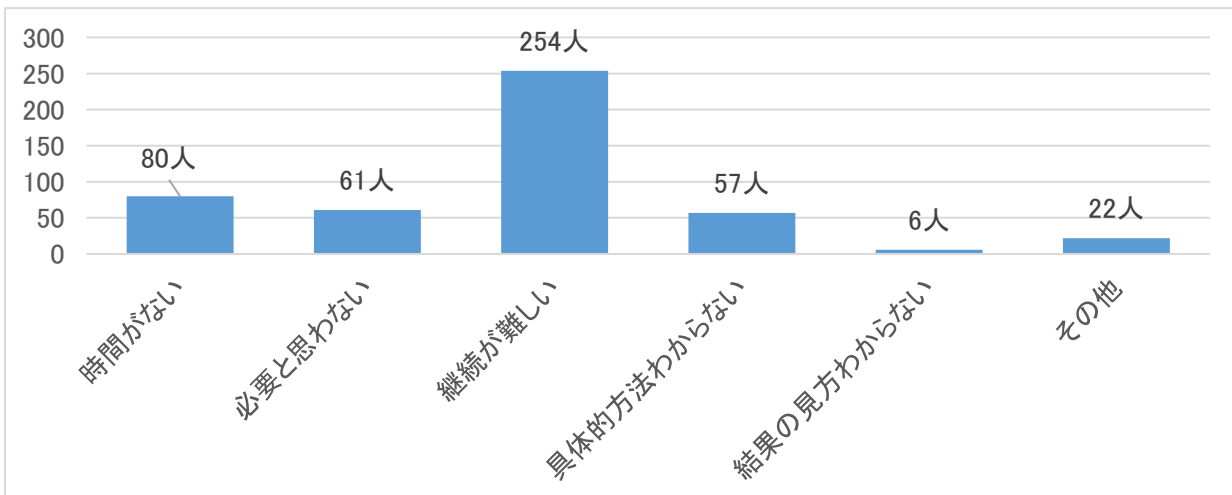


健診受診後に実際に行われている生活習慣の改善としては、食事と運動中心になっている。

(問 15) 問 13 で、「2 見直そうと思ったがしていない」「3 見直そうとは思わなかった」の場合、

その理由は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

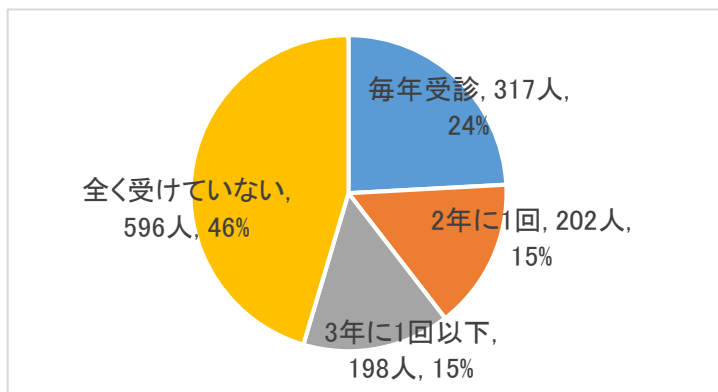
1. 時間が無い 2. 必要と思わない 3. 継続して行うことが難しい 4. 具体的な方法がわからない
5. 結果の見方がわからない 6. その他()



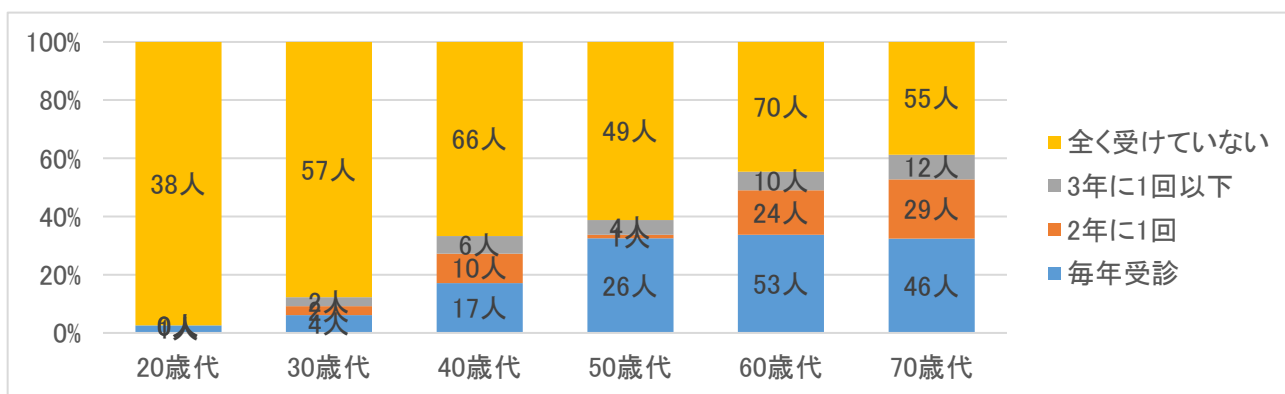
生活習慣改善に当たって、特に継続の難しさが明らかになっている。継続を支援するような保健事業の実施や環境整備が求められる。

(問 16) あなたはがん検診を受けたことがありますか。(〇は1つ)

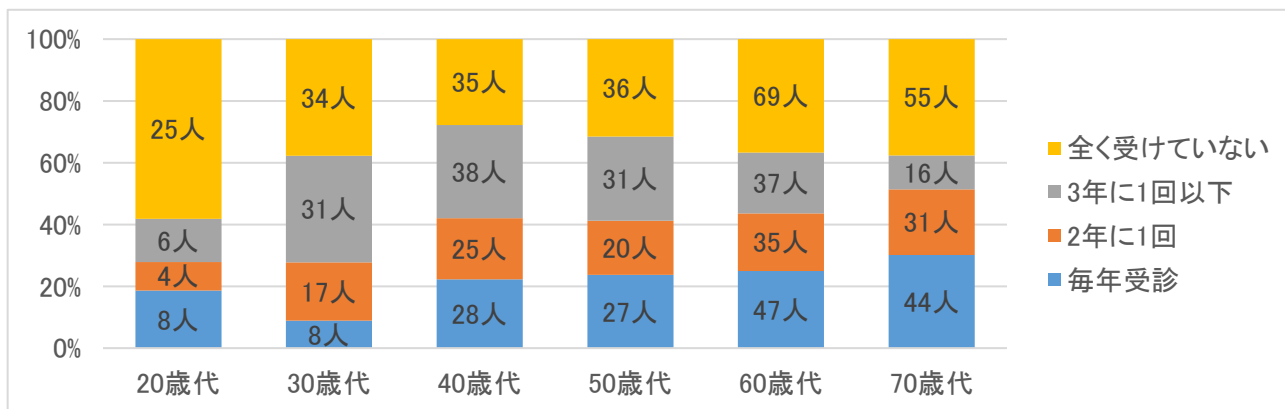
1. 毎年受けている→問 13 へ 2. 2年に1回は受けている→問 13 へ 3. 3年に1回以下→問 13 へ
 4. 全く受けていない→問 17 へ



男性年代別



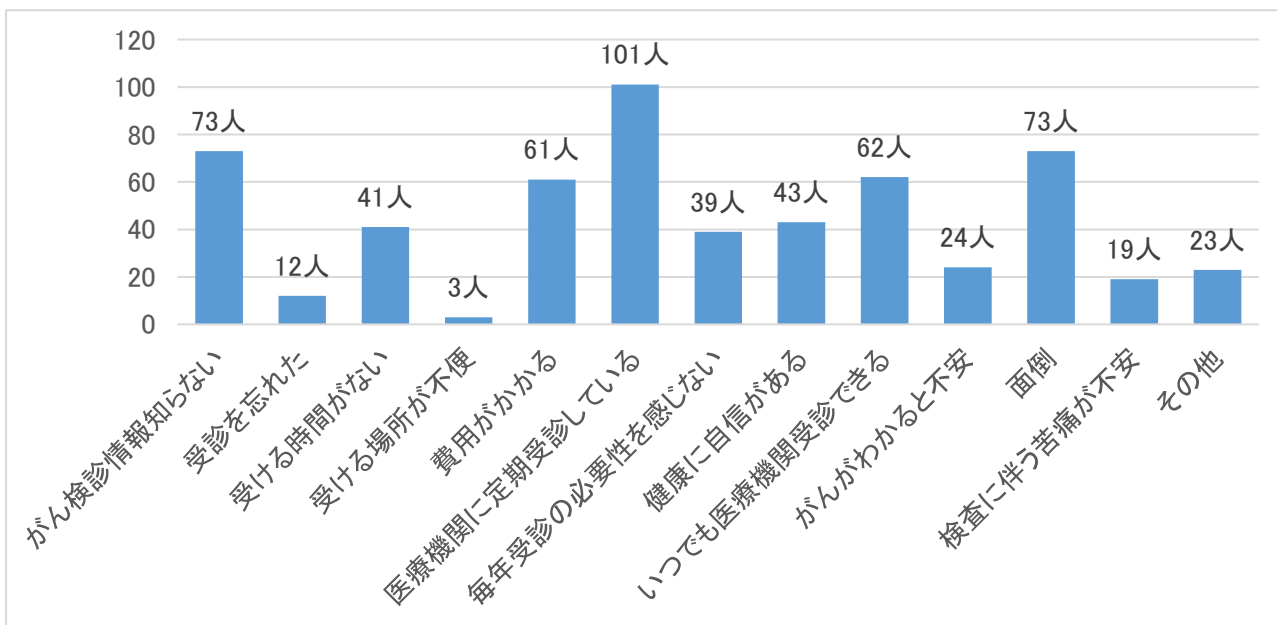
女性年代別



がん検診を全く受けていない人が約半数を占めている。特に男性では 50 歳代まで全く受診していない人が半数を超えている。

(問 17) 問 16 で「2 受けていない」と答えた方で、最もよくあてはまる理由はどれですか。(○は1つ)

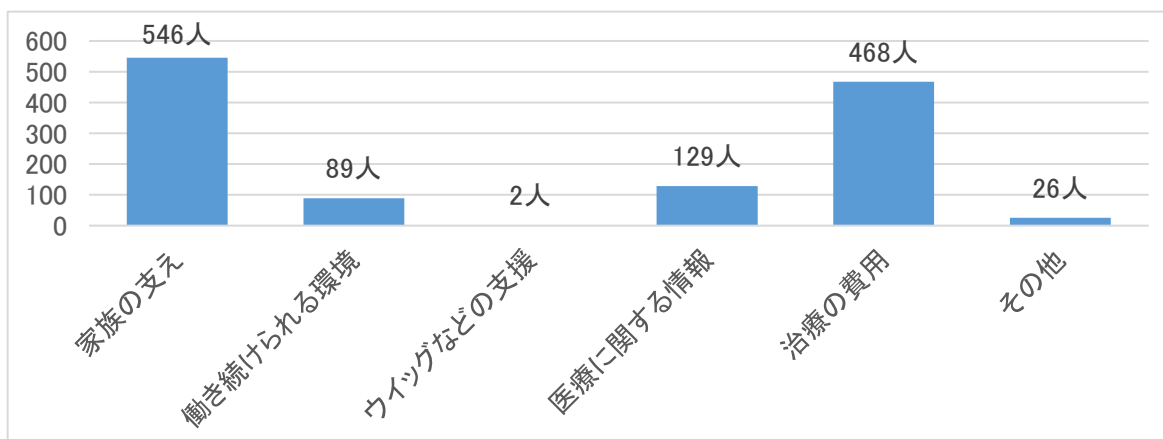
1. がん検診の情報を知らないから
2. うっかり受診するのを忘れていたから
3. 受ける時間がないから
4. 受ける場所が不便だから
5. 費用がかかり経済的にも負担になるから
6. 検査に伴う苦痛に不安があるから
7. 医療機関に定期的に受診しているから
8. 毎年受ける必要性を感じないから
9. 健康状態に自信があり必要性を感じないから
10. 必要な時はいつでも医療機関を受診できるから
11. がんであると分かるのが不安だから
12. 面倒だから
13. その他()



医療機関に定期受診していてもがん検診に該当する検査がされているとは限らず、いつでも医療機関を受診できるからと思われるいたら早期発見という二次予防が実現できない。がん検診の必要性をきちんと説明し、情報を広める必要がある。

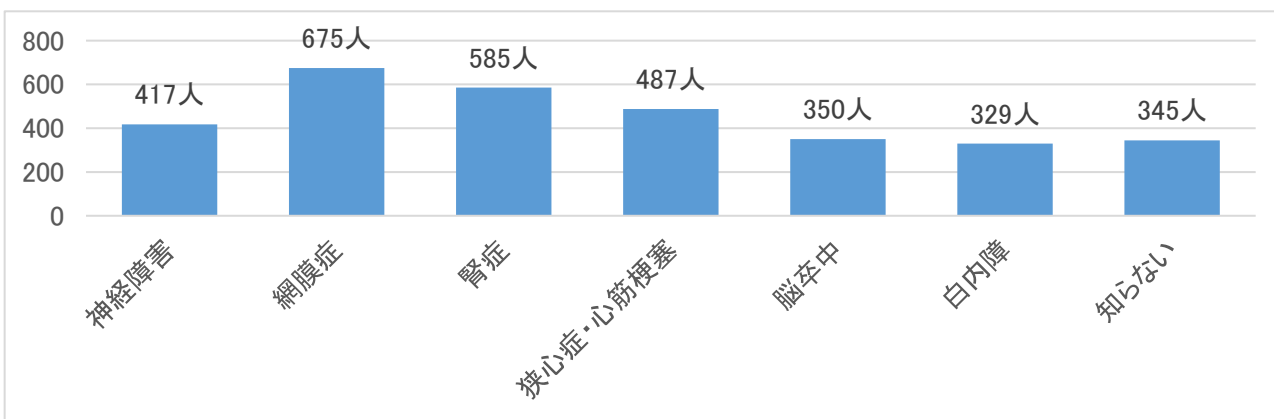
(問 18) あなたが、がんになっても自分らしく生活できるために最も必要な支援は何ですか。(○は1つ)

1. 家族の支え
2. 働き続けられる職場
3. ウィッグなどの支援
4. 医療に関する情報
5. 治療の費用
6. その他()



(問 19) あなたは糖尿病の合併症について知っていますか。合併症だと思うものすべてに○をつけてください。

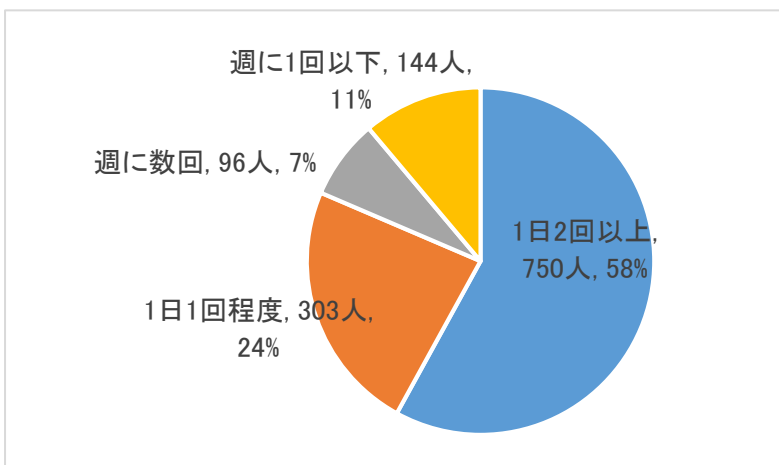
1. 神経障害 2. 網膜症 3. 腎症 4. 狭心症・心筋梗塞 5. 脳卒中 6. 白内障 7. 知らない



合併症のことなど、生活習慣病のことをさらに市民に広く周知していく必要がある。

(問 20) あなたが家族や知人と食事を共にする頻度はどのくらいですか。(○は1つ)

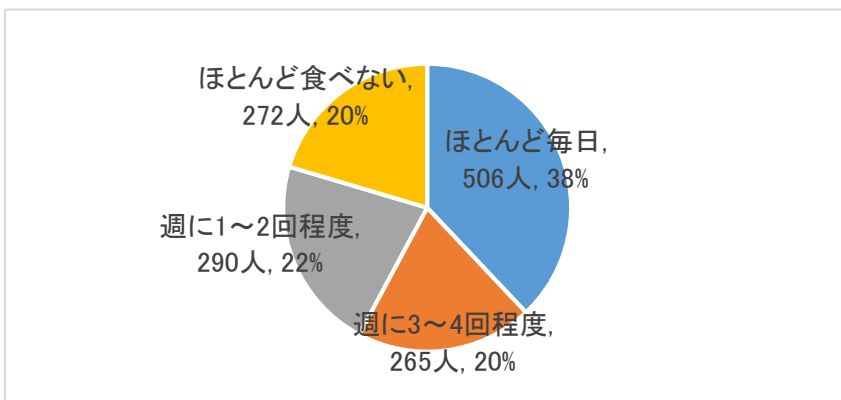
1. 1日に2回以上 2. 1日に1回程度 3. 週に数回 4. 週に1回以下



家族で食事を一緒にする機会を増やすと共に、1人暮らしの人が誰かと一緒に食事をする事ができるような居場所づくりも必要である。

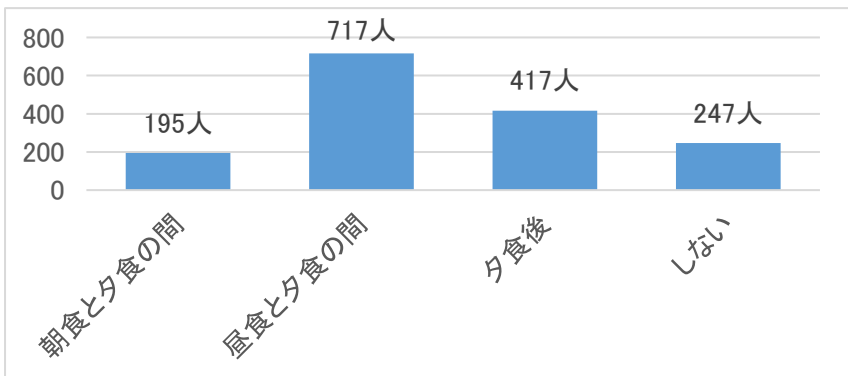
(問 21) あなたはどのくらい間食をしますか。(○は1つ)

1. ほとんど毎日 2. 週に3~4回程度 3. 週に1~2回程度 4. ほとんど食べない



(問 22) あなたは間食・夜食をいつしますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

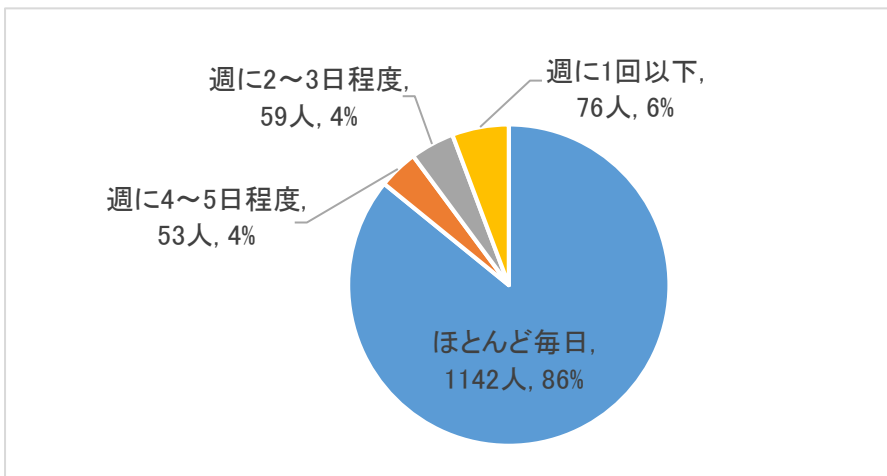
1. 朝食と昼食の間 2. 昼食と夕食の間 3. 夕食後 4. しない



夜食は控えるべきことや、持病等に応じて間食に制限をかけるべきことなどを周知する必要がある。

(問 23) あなたが朝食を食べる頻度はどのくらいですか。(○は1つ)

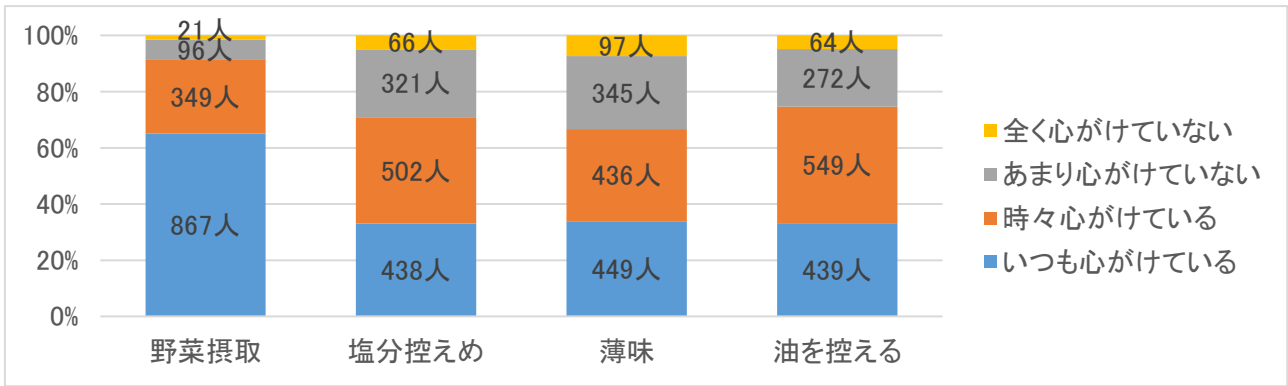
1. ほとんど毎日 2. 週に4~5回程度 3. 週に2~3回程度 4. 週に1回以下



朝食を欠くことがある人が14%と少なくなかった。

(問 24) あなたは以下のことについて、どの程度心がけていますか。(各項目につき、○は1つ)

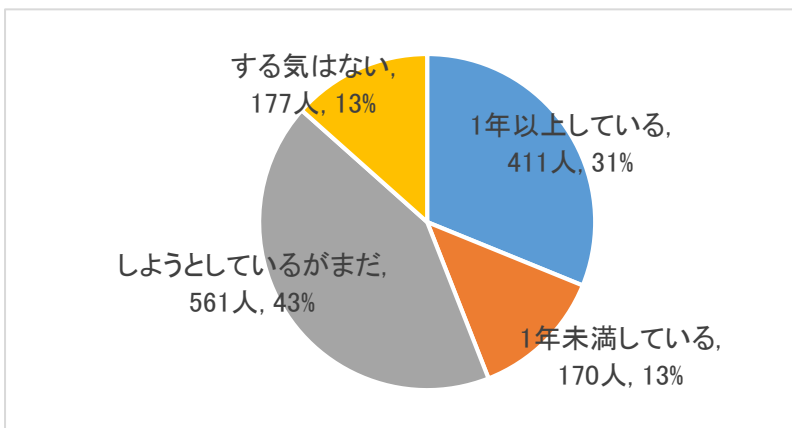
	いつも 心がけている	時々 心がけている	あまり 心がけていない	全く 心がけていない
野菜を食べること	1	2	3	4
食塩の多い料理を控えること (麺類・加工食品など)	1	2	3	4
薄味で食べること (調味料の使い方)	1	2	3	4
油の多い料理を控えること	1	2	3	4



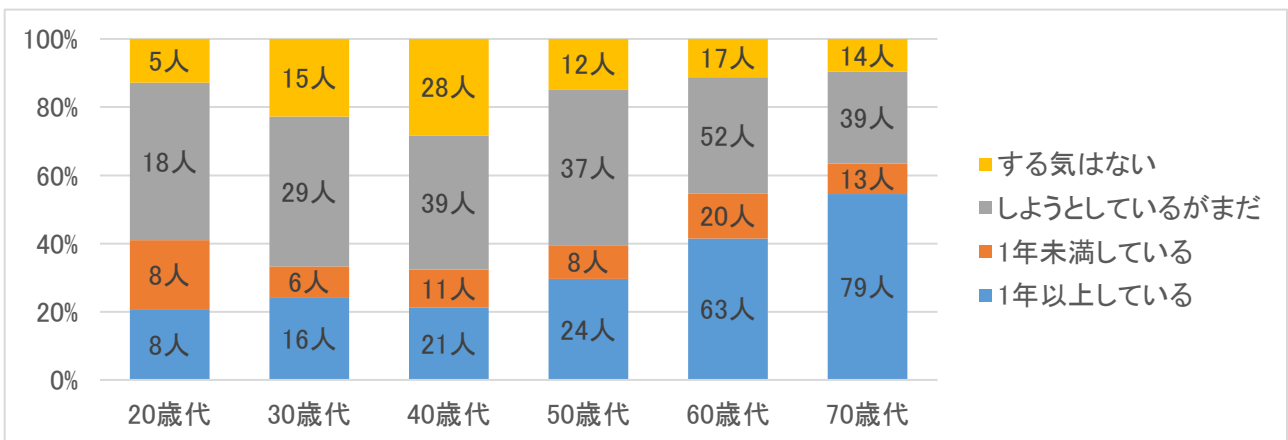
野菜摂取は比較的心がけられているが、塩分控えめや薄味といった減塩の心がけはまだ十分には根付いていないことがうかがわれる。

(問 25) あなたは1日30分以上の軽く汗をかく運動を、週2回以上していますか。(○は1つ)

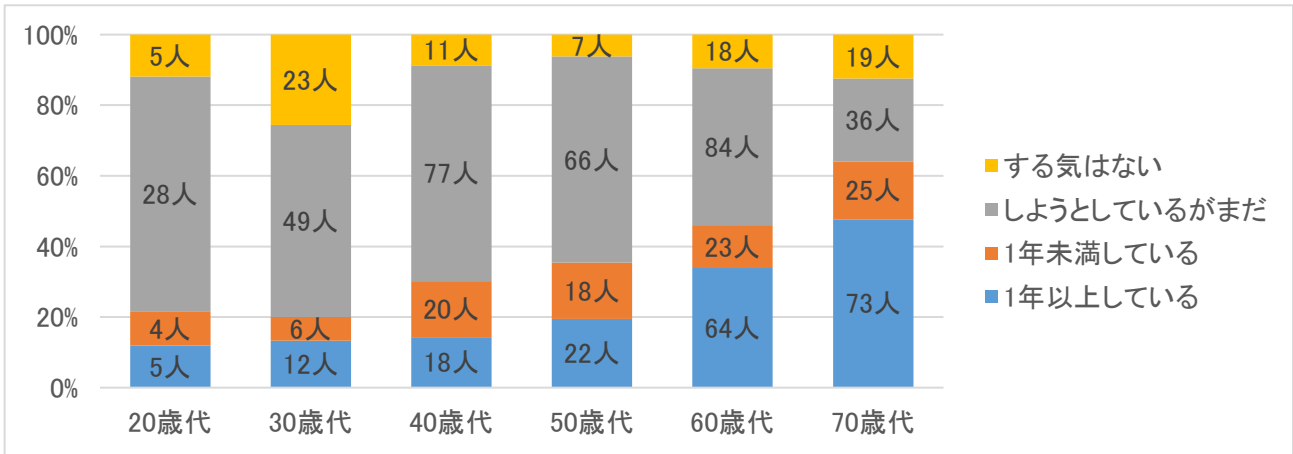
1. している(1年以上) 2. している(1年未満) 3. しようとしているがまだ行っていない 4. する気はない



男性年代別



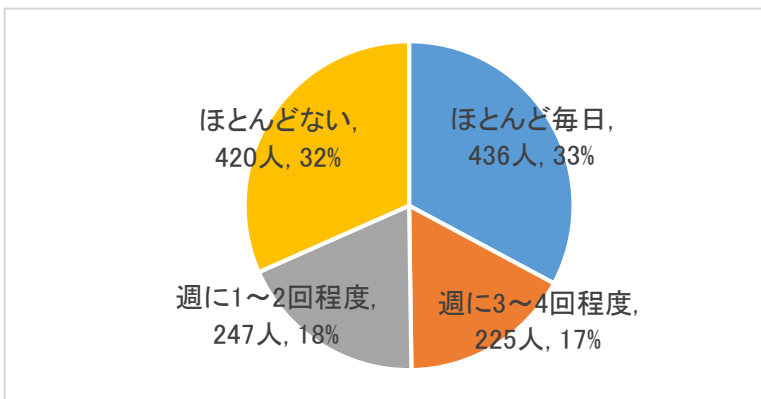
女性年代別



運動習慣は50歳代までで低く、男性に比べ女性がやや低い。「しようとしているがまだ行っていない」という回答の割合が高く、実際に運動を実行するための具体的な取り組みが必要である。

(問26) あなたは日常生活で健康維持増進のために意識的に体を動かすよう心がけていますか。(○は1つ)

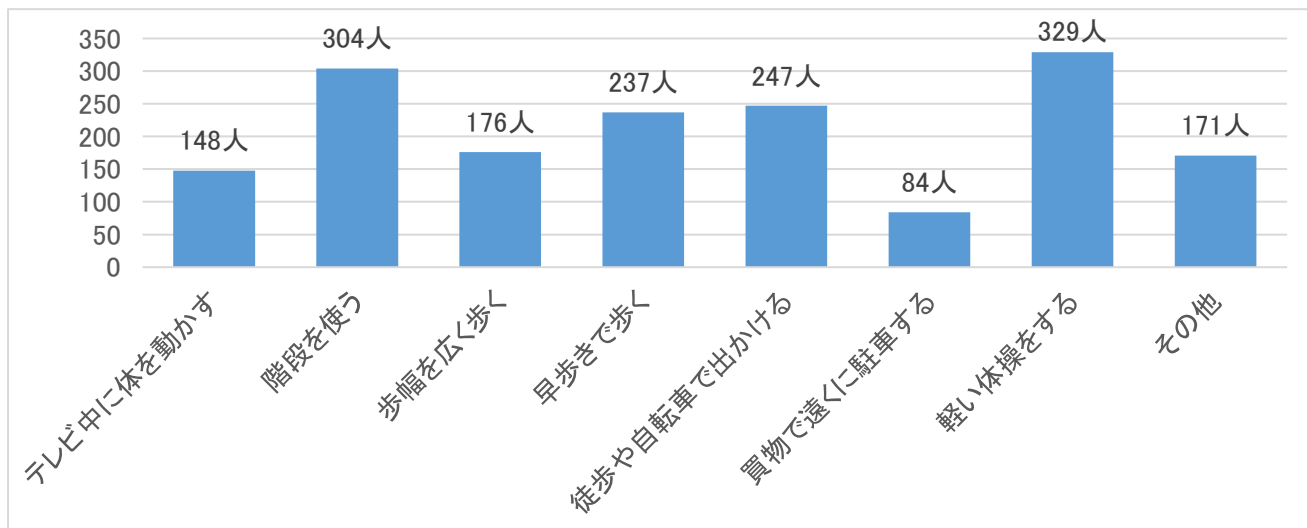
1. ほとんど毎日 2. 週に3~4回程度 3. 週に1~2回程度 4. ほとんどない → 問28へ



健康維持増進のために意識的に体を動かすような心がけもあまり高いとは言えず、日常生活の中で身体活動を増やす例などを広めてい必要があると思われる。

(問 27) 問 26 で「1 いつも」「2 時々」「3 ほとんどない」の場合、あなたは日常生活でどのように体を動かしていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

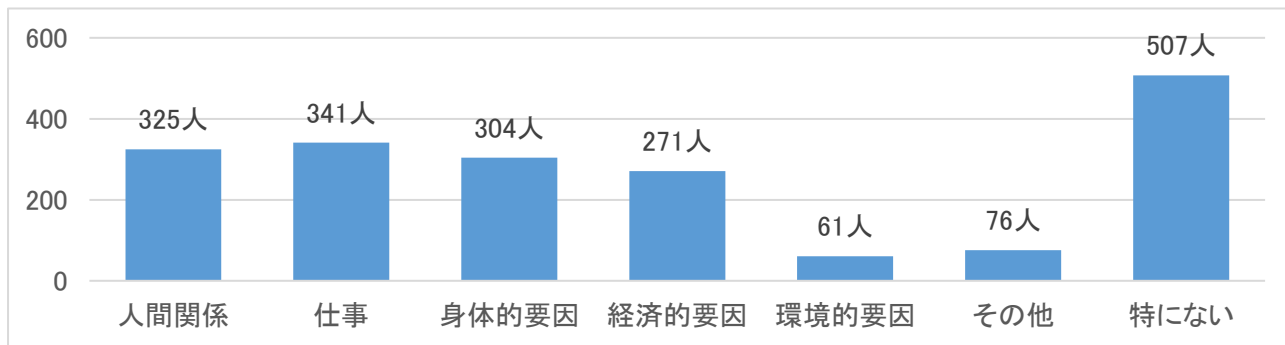
1. テレビを見ながら体を動かす 2. 階段を使う 3. 歩幅を広く歩く 4. 早歩きで歩く
5. 徒歩や自転車で出かける 6. 買い物で遠くに駐車する 7. 軽い体操をする 8. その他()



日常生活の中でより体を動かす方法はたくさんあることを示し、各市民が多くの項目に○がつくようにしたい。

(問 28) あなたは現在どのようなストレスや悩みがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

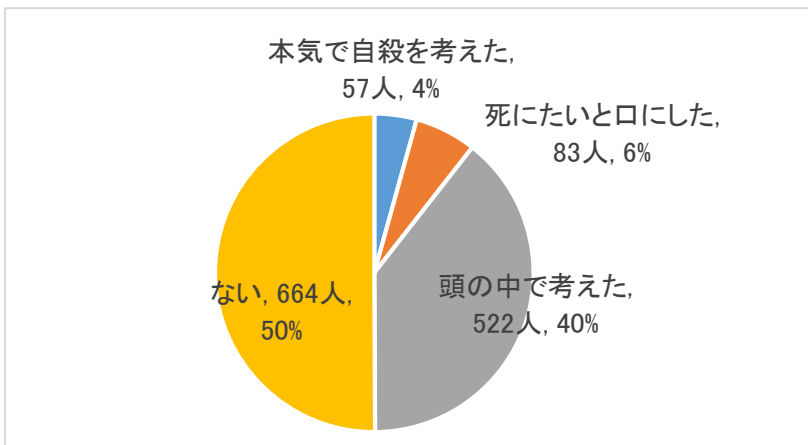
1. 人間関係 2. 仕事 3. 身体的要因(病気や睡眠不足など) 4. 経済的要因
5. 環境的要因(天候や騒音など) 6. その他() 7. 特にない



ストレスや悩みの原因として、人間関係、仕事、身体的要因、経済的要因と様々であることがわかる。

(問 29) あなたはこれまでの人生の中で、思いつめて悩んだことがありますか。(○は1つ)

1. 本気で自殺を考えたことがある 2. 死にたいと口にしたことがある
 3. 口には出さず頭の中で考えたことがある 4. ない→問 31 へ

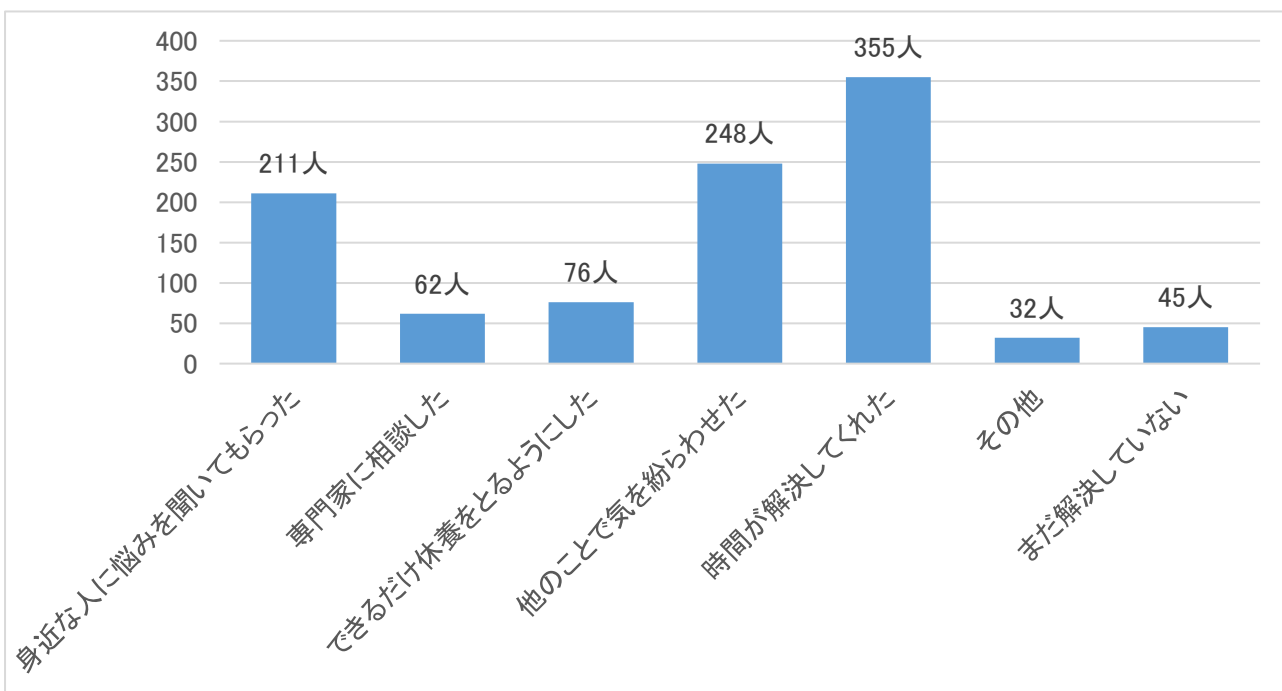


頭の中で考えた人まで含めると、市民の半数が自殺を考えた経験があり、そこまで思いつめて悩まずにすむような環境づくりが必要である。

(問 30) 問 29 で「1 本気で自殺を考えたことがある」「2 死にたいと口にしたことがある」「3 口には出さず頭の中で考えたことがある」の場合、どのようにして乗り越えましたか。

あてはまるものすべてに○をつけてください。

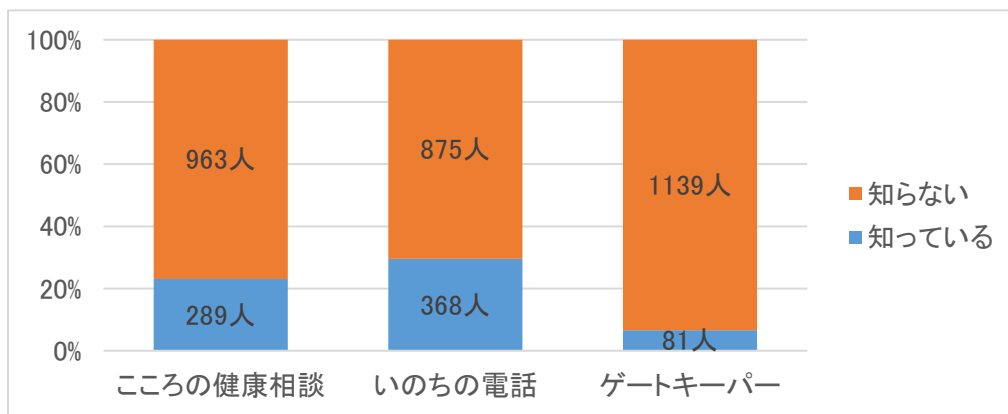
1. 家族や友人、職場の同僚など身近な人に悩みを聞いてもらった
 2. 医師やカウンセラーなど心の健康に関する専門家に相談した 3. できるだけ休養をとるようにした
 4. 趣味や仕事など他のことで気を紛らわせるように努めた 5. 時間が解決してくれた
 6. その他() 7. まだ解決していない



専門家に相談できる体制をとると共に、家族や職場、地域で身近に悩みを聞いてもらえる人を増やすような取り組みも必要である。

(問 31) あなたは相談する窓口を知っていますか。(各項目につき、○は1つ)

	知っている	知らない
こころの健康相談統一ダイヤル	1	2
いのちの電話	1	2
ゲートキーパー (こころのサポーター)	1	2

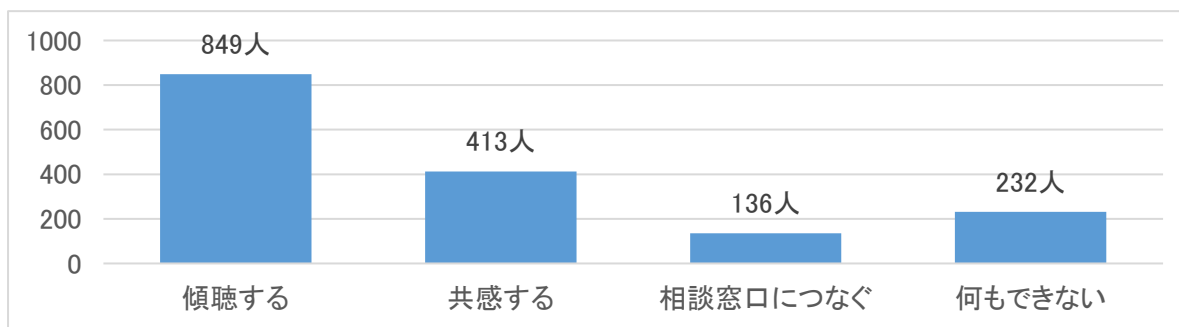


ゲートキーパーは、育成と共に、存在の周知が必要であることがわかる。

(問 32) あなたは身近な人が悩んでいることに気づいた時に場合に応じてどのような対応ができますか。

あてはまるものすべてに○をつけてください。

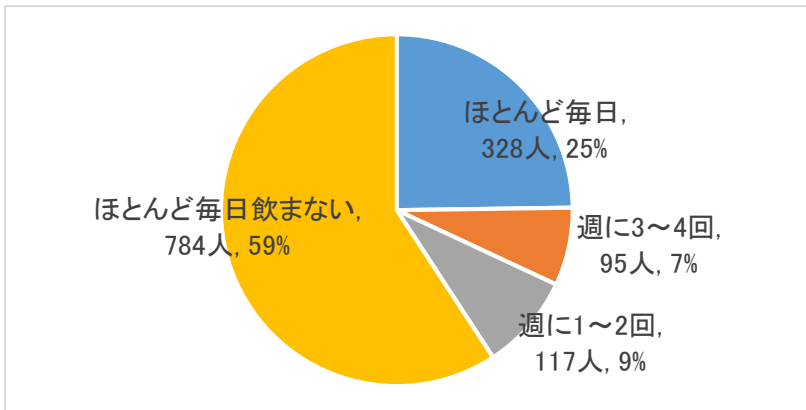
1. 傾聴する 2. 共感する 3. 相談窓口につなぐ 4. 何もできない



傾聴に関しては多くの市民が対応できると答えている。必要時に相談窓口を紹介したり、直接つないだりできる市民を増やしたい。

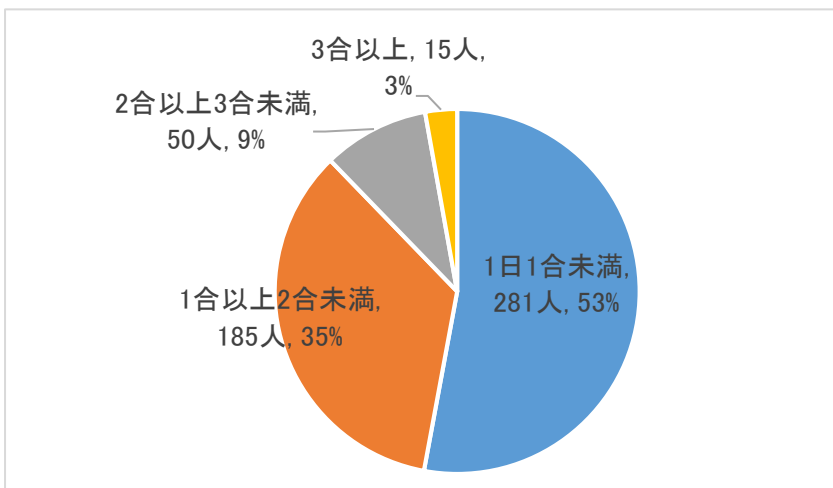
(問 33) あなたは週に何日くらいお酒(清酒、焼酎、ビール、洋酒など)を飲みますか。(○は1つ)

1. ほとんど毎日 2. 週に3~4回 3. 週に1~2回 4. ほとんど飲まない→問 35 へ



(問 34) 問 33 で「1 ほとんど毎日」「2 週に3~4回」「3 週に1~2回」の場合、お酒を飲む日は、1日当たりどのくらいの量を飲みますか。(○は1つ)

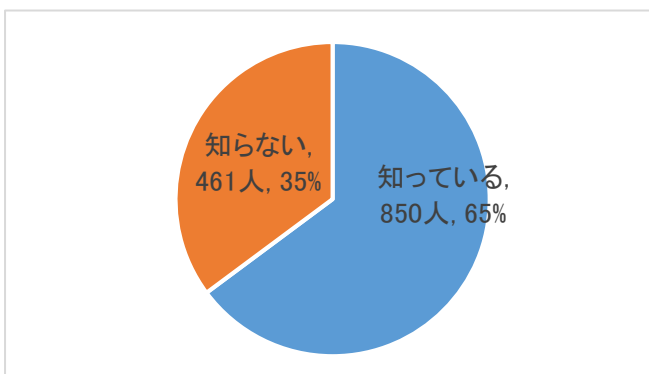
1. 1日1合未満 2. 1合以上2合未満 3. 2合以上3合未満 4. 3合以上



飲酒習慣のある人の約半数が1日1合を越えていることがわかる。

(問 35) あなたは「節度ある適度な飲酒」が1日1合程度であることを知っていますか。(○は1つ)

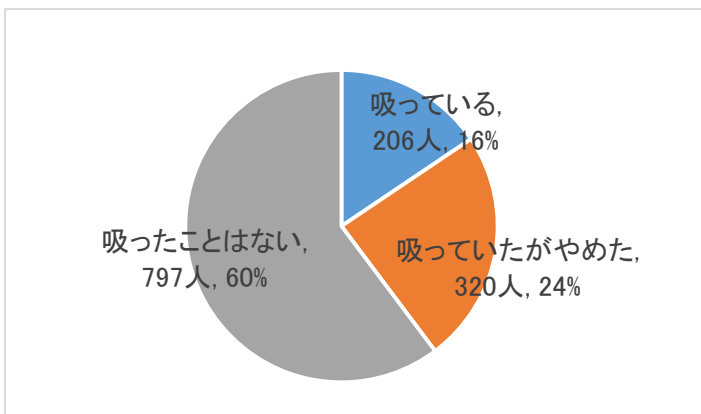
1. 知っている 2. 知らない



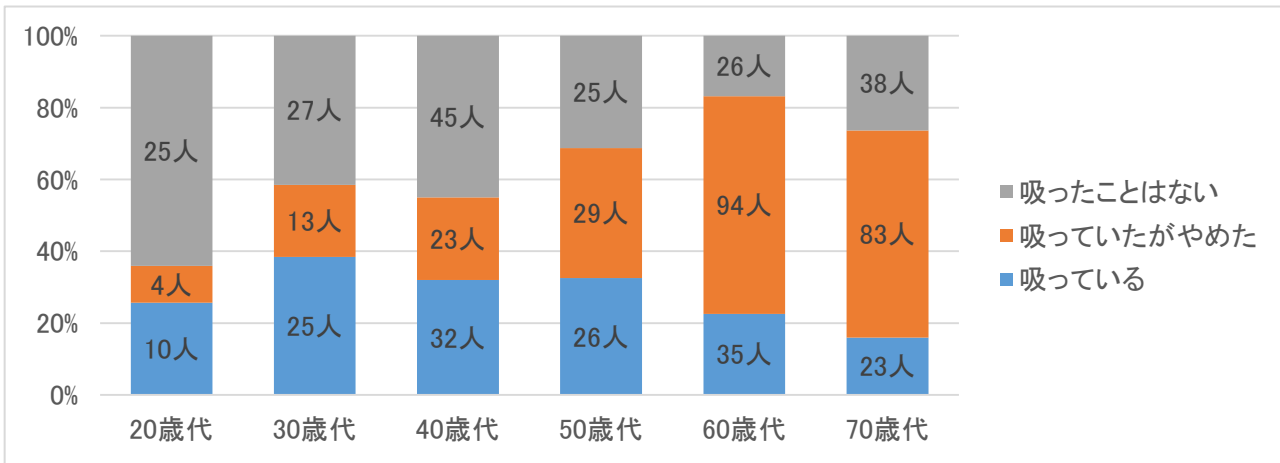
適切な飲酒量の周知と、節度ある適度な飲酒の推進を進めなければならない。

(問 36) あなたはたばこを吸っていますか。(○は1つ)

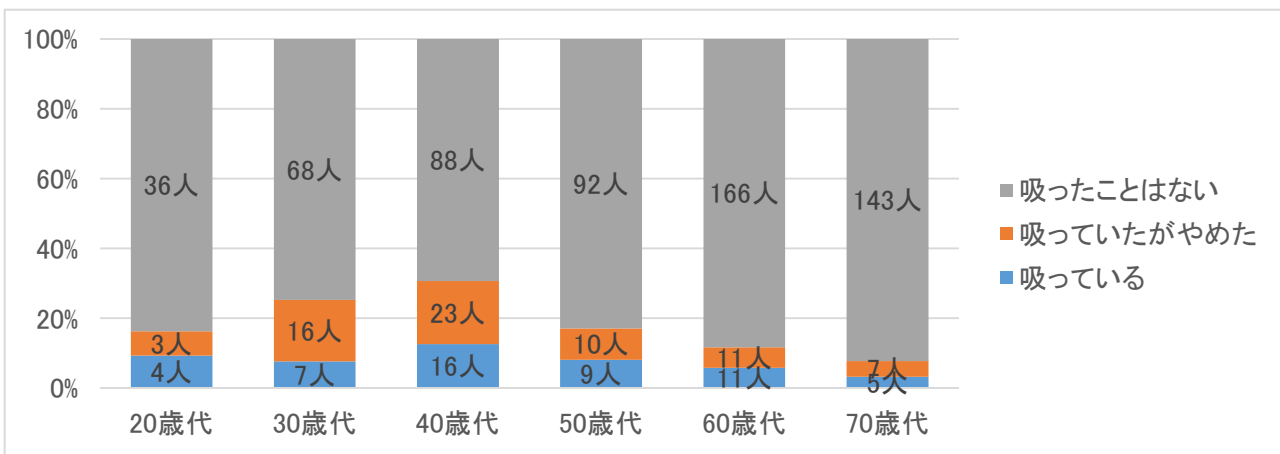
1. 吸っている→問 37へ 2. 吸っていたがやめた→問 37へ 3. 吸ったことはない→問 38へ



男性年代別



女性年代別



男性は、60代で8割以上など、喫煙経験のある人の割合が高いが、吸っていたがやめた人という人がかなり多くなっている。若い世代ではまだ喫煙率も高く、禁煙を進めると共に、喫煙を開始させない取り組みも必要である。

(問 37) 問 36 で「1 吸っている」「2 吸っていたがやめた」の場合、

何歳から吸い始めましたか。 (歳)

吸っているまたは吸っていた年数は何年ぐらいですか。 (年)

また、一日当たりどのくらい吸っています(いました)か。 (本/1日)

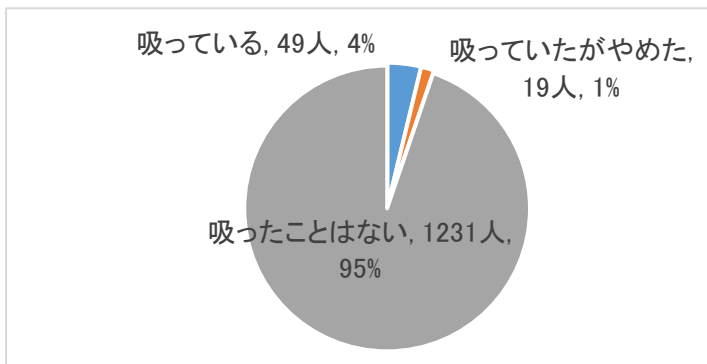
吸い始め年齢: 平均値±標準偏差 20.6±4.9 歳 中央値(最小値-最大値) 20(12-60)歳

喫煙の年数: 平均値±標準偏差 25.7±14.1 年 中央値(最小値-最大値)25(0.5-69)年

1日あたり本数: 平均値±標準偏差 18.3±10.0 本 中央値(最小値-最大値)20(1-80)年

(問 38) あなたは電子タバコを吸っていますか。(○は1つ)

1. 吸っている→問 39へ 2. 吸っていたがやめた→問 39へ 3. 吸ったことはない→問 43へ



たばこから電子タバコへの移行が見られ始めている。

(問 39) 問 38 で「1 吸っている」「2 吸っていたがやめた」の場合、

何歳から吸い始めましたか。 (歳)

吸っているまたは吸っていた年数は何年ぐらいですか。 (年)

また、一日当たりどのくらい吸っています(いました)か。 (本/1日)

吸い始め年齢: 平均値±標準偏差 37.1±15.7 歳 中央値(最小値-最大値) 36(16-72)歳

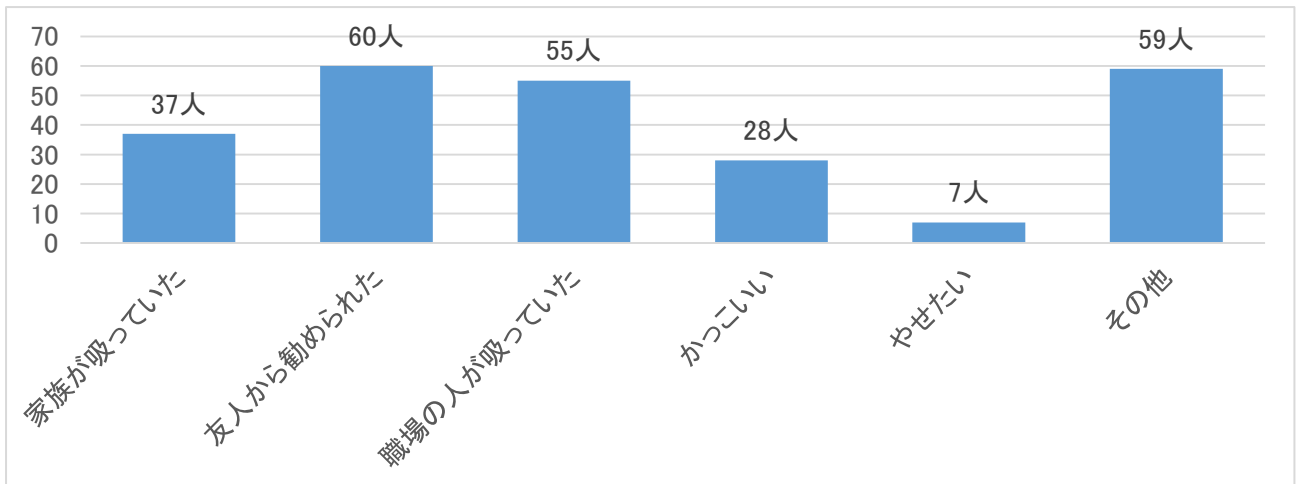
喫煙の年数: 平均値±標準偏差 10.0±16.2 年 中央値(最小値-最大値) 1(0-56)年

1日あたり本数: 平均値±標準偏差 14.3±9.5 本 中央値(最小値-最大値)10(1-40)本

(問 40) 問 36 または問 38 で「1 吸っている」「2 吸っていたがやめた」の場合、どのようなきっかけで

吸い始めましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

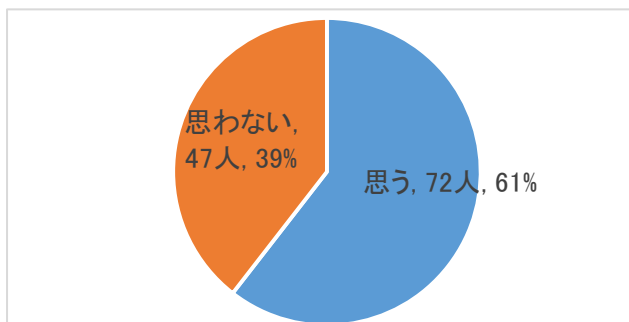
1. 家族が吸っていたから 2. 友人から勧められた 3. 職場の人が吸っていたから 4. カッコいいから
5. やせたいから 6. その他()



家族や職場の人の影響は強いので、受動喫煙の防止や分煙を通じて、喫煙の連鎖を防ぎたい。友人に喫煙を勧めないことや、勧められても断ることの教育等も必要である。

(問 41) 問 36 または問 38 で「1 吸っている」の場合、たばこをやめたいと思いますか。(○は1つ)

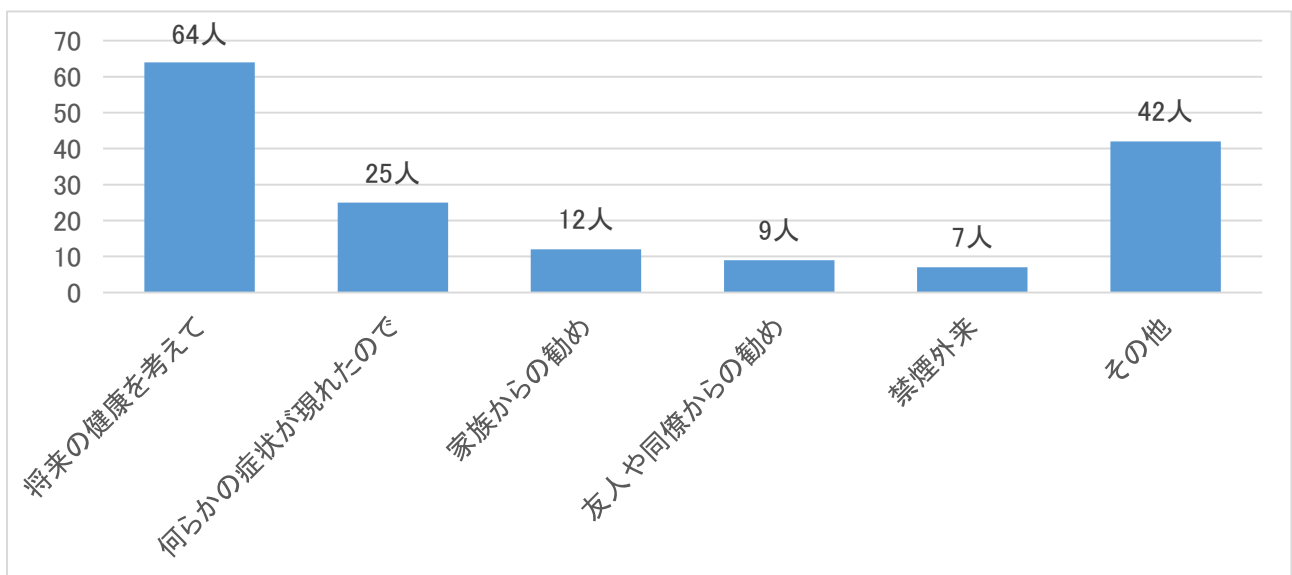
1. 思う 2. 思わない



喫煙者の6割がたばこをやめたいと考えており、その支援が求められている。

(問 42) 問 36 または問 38 で「2 吸っていたがやめた」の場合、どういうきっかけでやめましたか。(○は1つ)

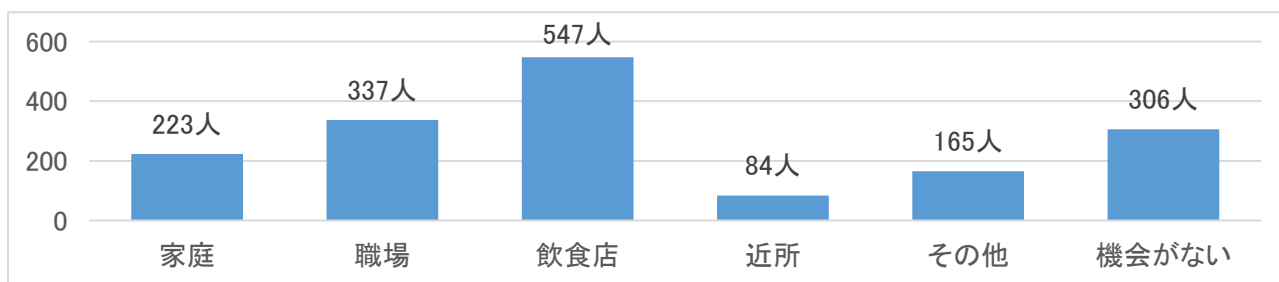
1. 将来の健康を考えて 2. 何らかの症状が現れたので 3. 家族からの勧め 4. 友人や同僚からの勧め
5. 禁煙外来(相談) 6. その他()



家族や友人、同僚からの勧めがあったとしても、本人の意思がなければ禁煙は実行できず、将来の健康を考えるきっかけを与えることが必要と思われる。

(問 43) あなたが、日頃自分以外の人吸ったたばこの煙を吸う機会(受動喫煙)がある場所はどこですか。
あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 家庭 2. 職場 3. 飲食店(主に居酒屋など) 4. 近所 5. その他() 6. 機会がない



職場や飲食店での禁煙、分煙を徹底すると共に、喫煙者への指導などを通じて、家庭内でも受動喫煙が起こらないようにしなければならない。

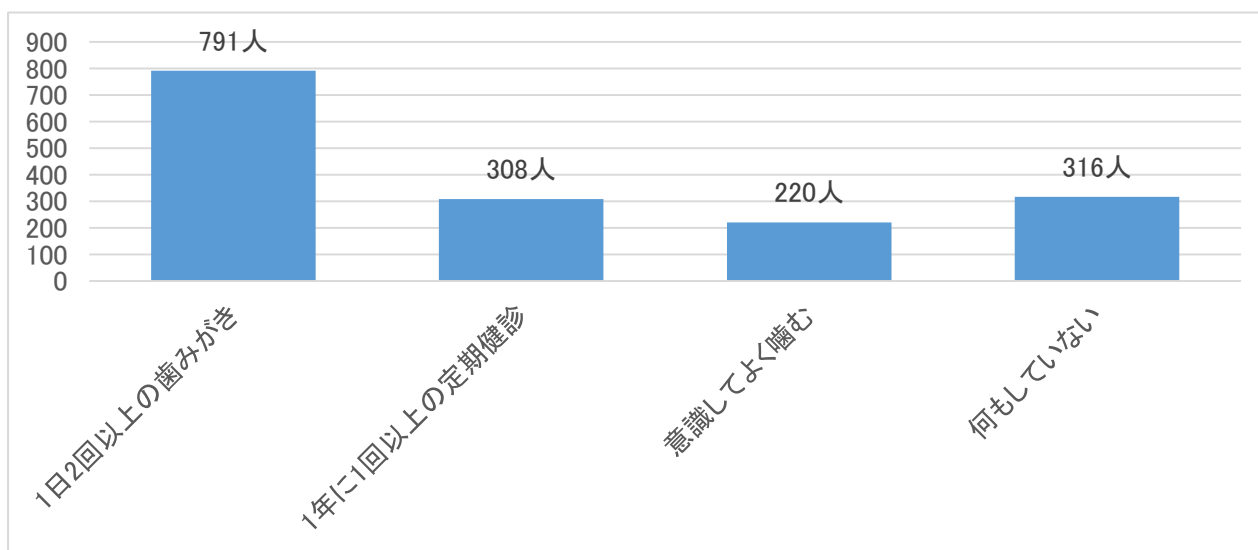
(問 44) あなたは自分の歯が何本ありますか。(通常は親知らずを除いて28本です) (本)

本数: 平均値±標準偏差 23.1±7.4本 中央値(最小値-最大値) 26(0-32)本

(問 45) あなたはいつまでも自分の歯で食べることができるように、何を心がけていますか。

あてはまるものすべてに○をつけてください。

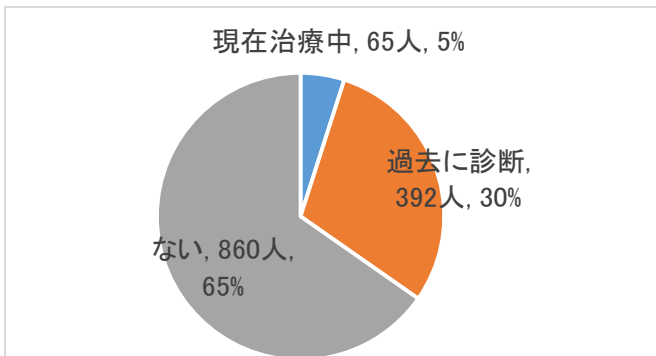
1. 1日2回以上の歯みがき 2. 1年に1回以上の定期健診 3. 意識してよく噛む 4. 何もしていない



歯みがきはできているが、1年に1回以上の定期健診受診者は多くなく、意識してよく噛むこともまだ十分には広まっていない。

(問 46) あなたは今までに歯周病と診断されたことがありますか。(○は1つ)

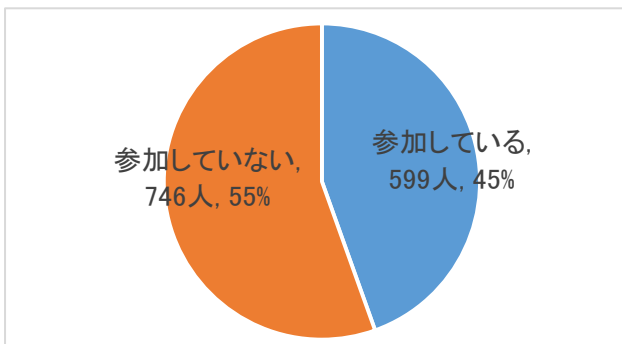
1. 現在治療中である 2. 過去に診断されたことがある 3. ない



現在の歯周病の有病率は5%と低い。

(問 47) あなたはボランティアや地域の行事など(総会や祭り、道普請など)に参加していますか。(○は1つ)

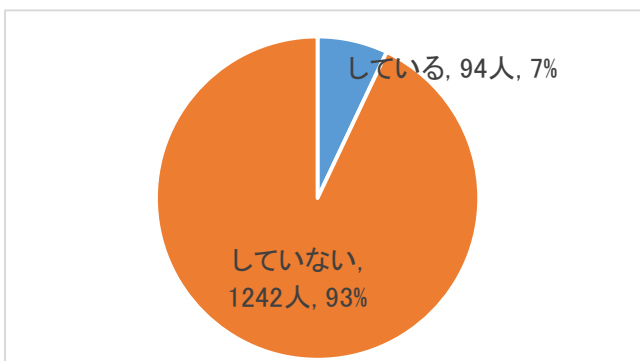
1. 参加している 2. 参加していない



ボランティアや地域の行事に参加していないと答えた人の方が多く、地域の中でのつながりの低下が危惧される。

(問 48) あなたは地域のために健康づくり活動をしていますか。(○は1つ)

1. している 2. していない

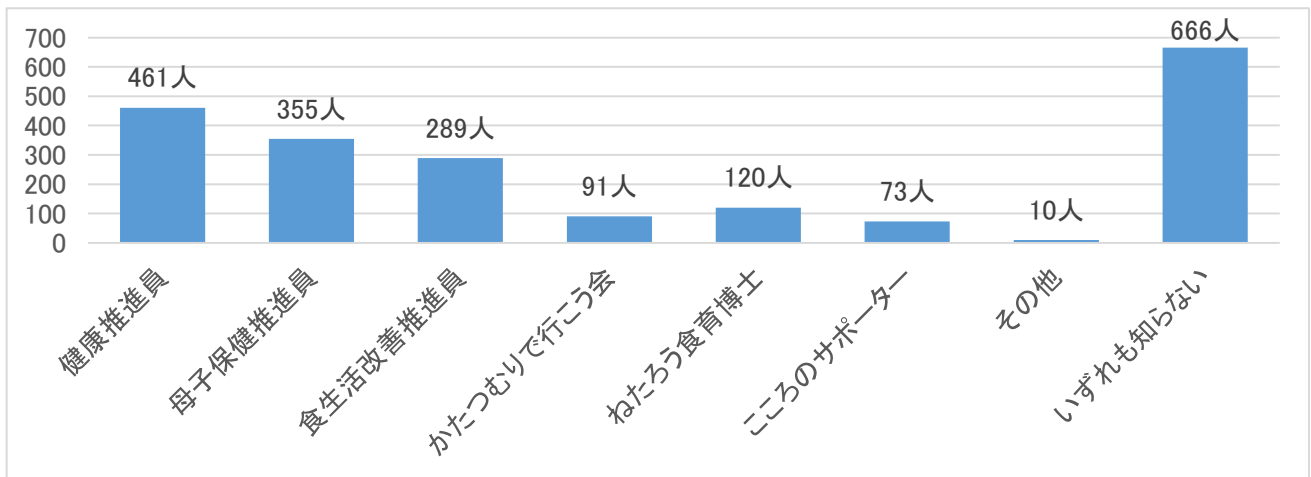


地域のための健康づくり活動実践者は少ない。

(問 49) あなたは健康づくりの担い手として、地域で活動している以下の組織を知っていますか。

知っているものすべてに○をつけてください。

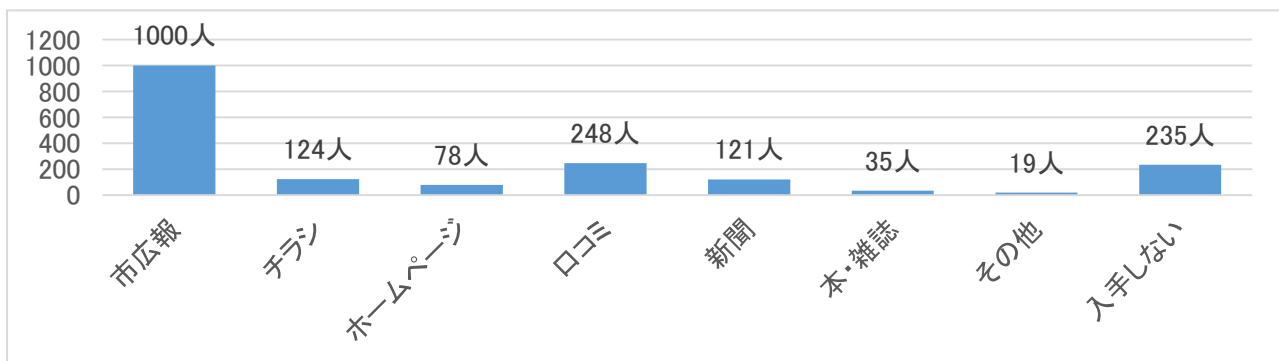
1. 健康推進員 2. 母子保健推進員 3. 食生活改善推進員
4. かたつむりで行こう会(SOS健康づくり計画運営委員) 5. ねたろう食育博士 6. こころのサポーター
7. その他() 8. いずれも知らない



健康推進員の認知度は高く、住民に見える活動ができていることがわかる。

(問 50) あなたは市の健康情報をどこから入手しますか。(複数回答可)

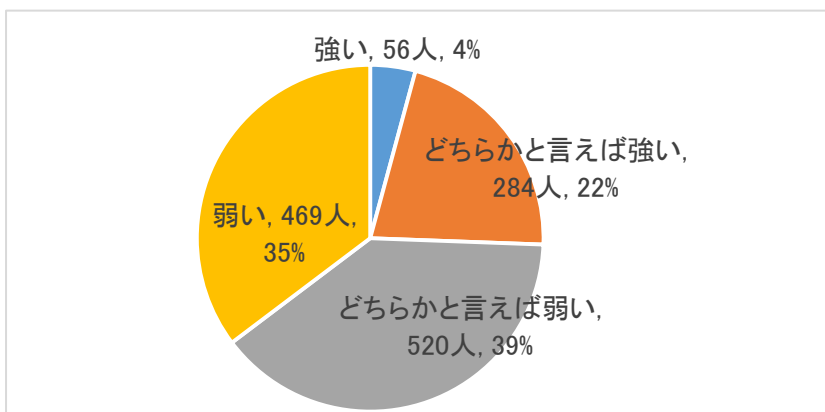
1. 市広報 2. チラシ 3. ホームページ 4. 口コミ(家族・友人など) 5. 新聞 6. 本・雑誌など
7. その他() 8. 入手しない



新聞やホームページなどよりも圧倒的に市広報が健康情報源として機能していることがわかる。市広報のさらなる活用とともに、多彩な情報源を構築することも必要である。

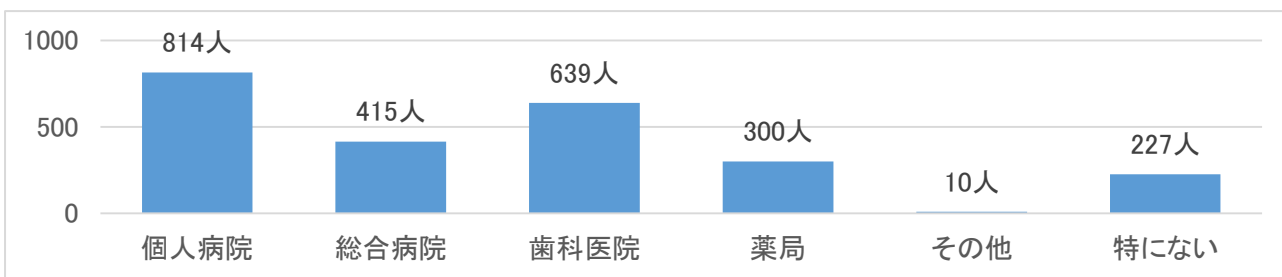
(問 51) あなたは自分と地域のつながりについてどう思いますか。(〇は1つ)

1. 強いと思う 2. どちらかと言えば強いと思う 3. どちらかと言えば弱いと思う 4. 弱いと思う



(問 52) あなたは以下のかかりつけがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

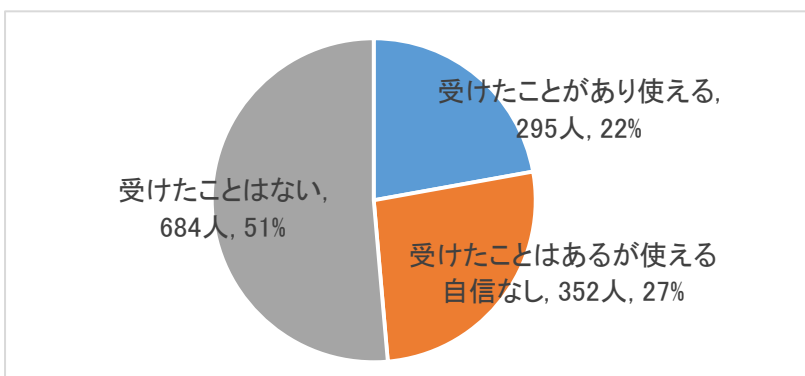
1. 個人病院 2. 総合病院 3. 歯科医院 4. 薬局 5. その他() 6. 特にない



病院だけでなく、歯科医院や薬局のかかりつけもある程度持たれていることがわかる。

(問 53) あなたは AED(自動体外式除細動器)の講習を受けたことがありますか。(○は1つ)

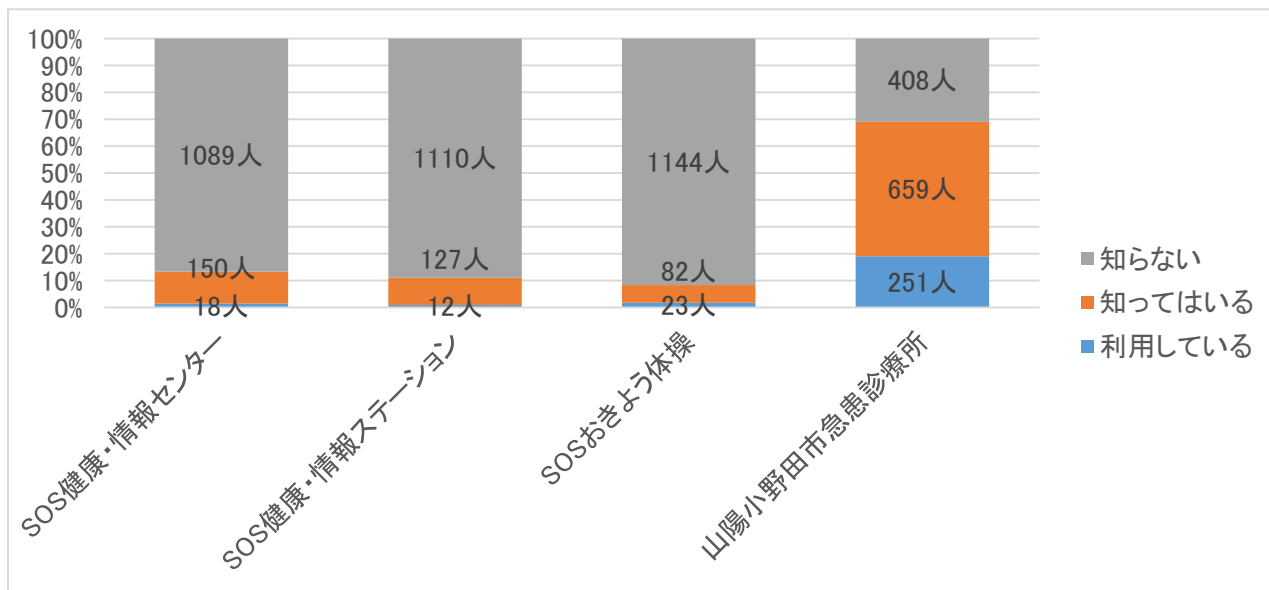
1. 受けたことがあるので使える 2. 受けたことはあるが使える自信がない 3. 受けたことはない



一度きりの体験ではなく、定期的な講習を行う必要がある。

(問 54) あなたは以下のものを知っていますか。(各項目につき○は1つ)

	利用(体験)している	知っているが利用(体験)したことはない	知らない
SOS 健康・情報センター	1	2	3
SOS 健康・情報ステーション	1	2	3
SOS おきよう体操	1	2	3
山陽小野田市急患診療所	1	2	3



SOS 健康づくり計画に関する取り組みの認知度がまだまだ低いことがわかる。